

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会

平成22年9月22日(水) 13:00～16:35
厚生労働省12階 専用第15・16会議室

次 第

- 1 あいさつ
厚生労働省健康局疾病対策課長 難波吉雄
- 2 エイズ対策の概要
厚生労働省健康局疾病対策課 課長補佐 平賀紀行
- 3 RED RIBBON LIVEによる普及啓発
ラジオDJ 山本シュウ
- 4 HIV検査体制の充実
慶應義塾大学 専任講師 加藤真吾
- 5 エイズ予防財団の取組
財団法人エイズ予防財団 事務局次長 中村正
同財団総務課 主任 柏崎正雄
- 6 地方公共団体の施策紹介
 - ① HIV検査の充実に向けた取組～東京都～
東京都福祉保健局健康安全部
エイズ・新興感染症担当課長 堂蘭桂子
 - ② 神戸市におけるエイズ対策の取り組みについて
神戸市保健所予防衛生課 主幹 森喜平
- 7 各自治体におけるHIV検査体制等に関する報告

配 布 資 料

- | | |
|-------|-----------------------|
| 資料1-1 | エイズ対策の概要 |
| 資料1-2 | 平成22年度「世界エイズデー」実施要綱 |
| 資料2 | RED RIBBON LIVE |
| 資料3 | HIV検査体制の充実 |
| 資料4 | エイズ予防財団の取組 |
| 資料5 | HIV検査の充実に向けた取組～東京都～ |
| 資料6 | 神戸市におけるエイズ対策の取り組みについて |
| 資料7 | HIV検査体制に関する調査票 |

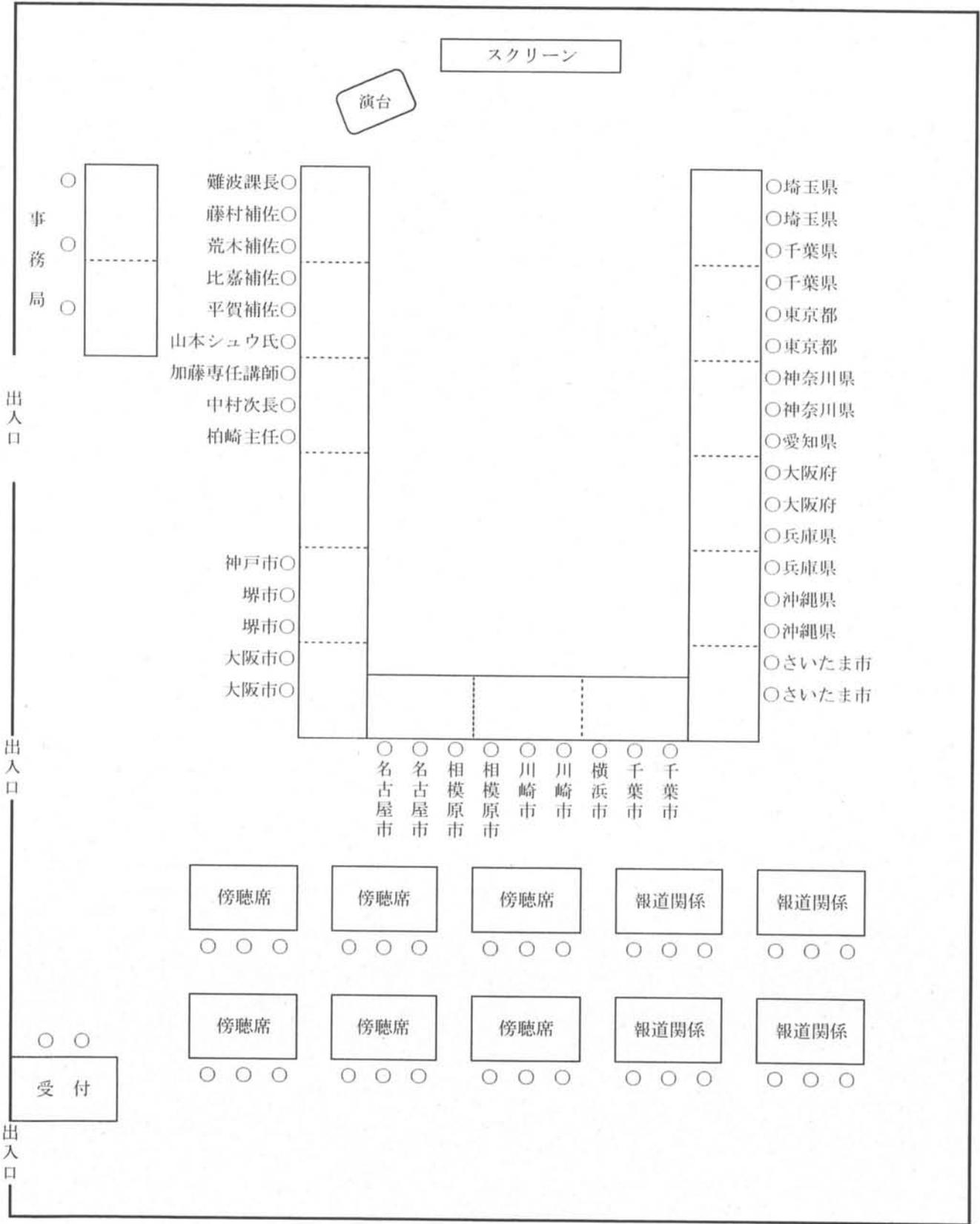
第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会 出席者名簿

(敬称略)

No.	自治体名	所 属	役 職	氏 名
1	埼玉県	保健医療部疾病対策課	主査	早川 和成
2			主事	兒玉 憲彦
3	千葉県	健康福祉部疾病対策課感染症対策室	主幹(兼)室長	渡辺 素子
4			副主幹	高橋 栄一
5	東京都	福祉保健局健康安全部感染症対策課	担当課長	堂蘭 桂子
6			担当係長	稲葉 洋美
7	神奈川県	保健福祉局保健医療部健康危機管理課	グループリーダー	川上 亮
8			主査	滝田 由紀子
9	愛知県	健康福祉部健康対策課		田中 正大
10	大阪府	健康医療部保健医療室地域保健感染症課	副理事	西田 正治
11			総括主査	奥野 克之
12	兵庫県	健康福祉部健康局疾病対策課	課長補佐兼係長	西下 重樹
13			主任	長谷川絵美
14	沖縄県	福祉保健部医務課	班長	棚原 憲美
15			主査	諸見里 健
16	さいたま市	保健福祉局保健所疾病予防対策課	課長	嘉悦 明彦
17			係長	瀬谷 恵美
18	千葉市	千葉市保健所感染症対策課	課長	大塚 正毅
19		保健福祉局健康部健康医療課	主任獣医師	高橋 岳
20	横浜市	健康福祉局健康安全部健康安全課	担当係長	青木 匡史
21	川崎市	健康福祉局健康安全室	担当課長	松浦 和子
22				山下 隆裕
23	相模原市	相模原市保健所疾病対策課	課長	八木 英次
24			主査	齋藤 みゆき
25	名古屋市	健康福祉局健康部健康増進課	主幹	稲葉 静代
26			技師	丹羽 昌之
27	大阪市	健康福祉局大阪市保健所感染症対策担当	課長代理	川本 雅人
28			担当係長	村中 康一
29	堺市	堺市保健所医療対策課	保健所次長兼課長	南 正人
30			主幹	中出 幸子
31	神戸市	神戸市保健所予防衛生課	主幹	森 喜平

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会

平成22年9月22日（水）13：00－16：35
厚生労働省12階 専用第15・16会議室

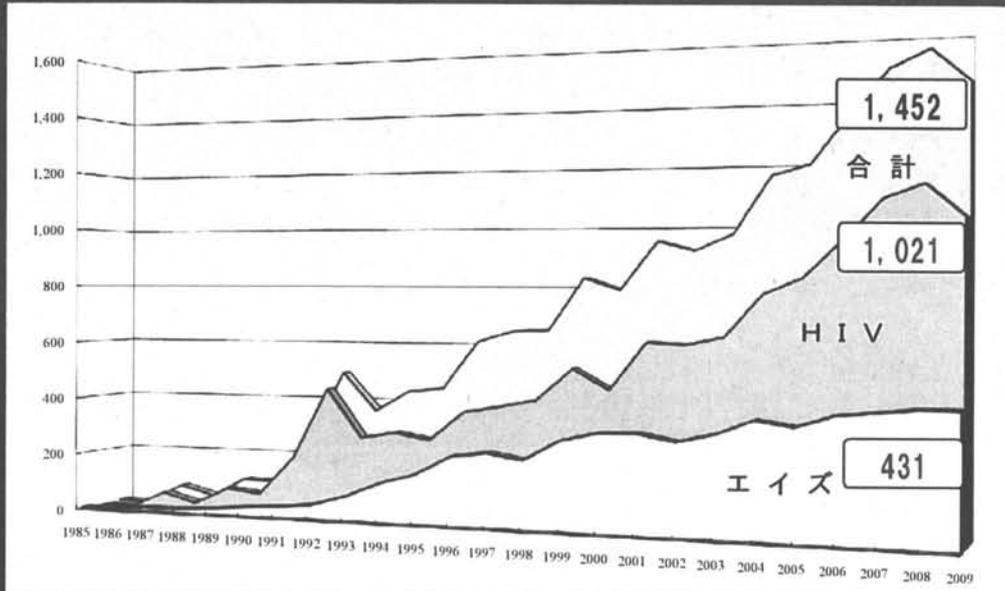


エイズ対策の概要

厚生労働省健康局疾病対策課
平賀 紀行

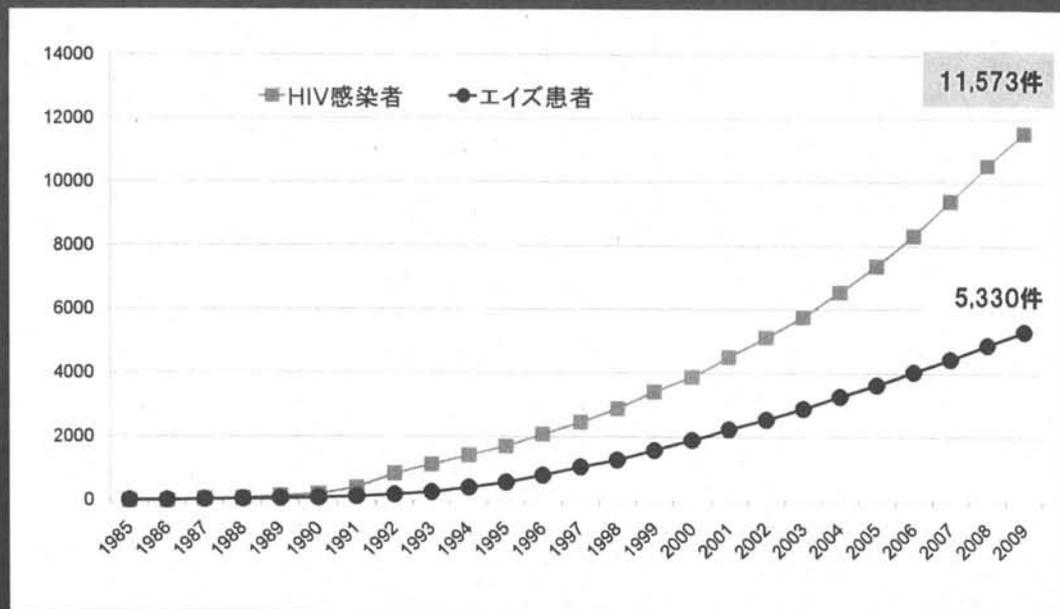
HIV／エイズの現状

増え続けるHIV感染者・エイズ患者報告数



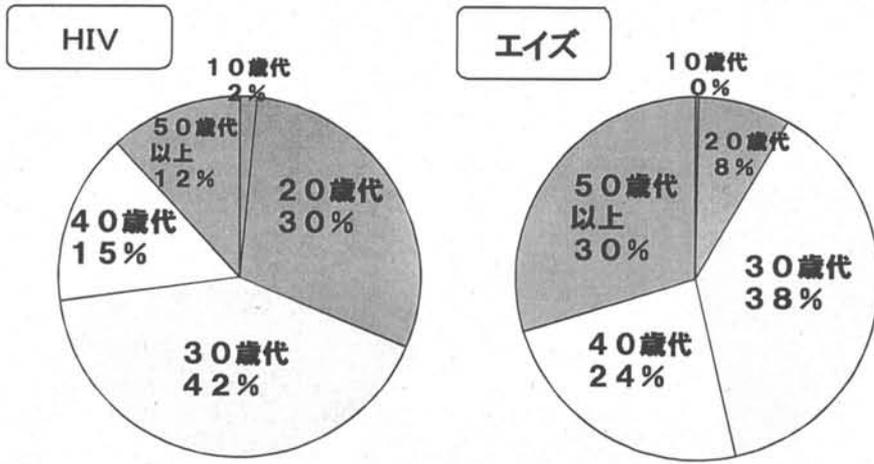
2009年厚生労働省エイズ動向委員会報告

日本における累計HIV感染者・エイズ患者報告数の年次推移



2009年厚生労働省エイズ動向委員会報告

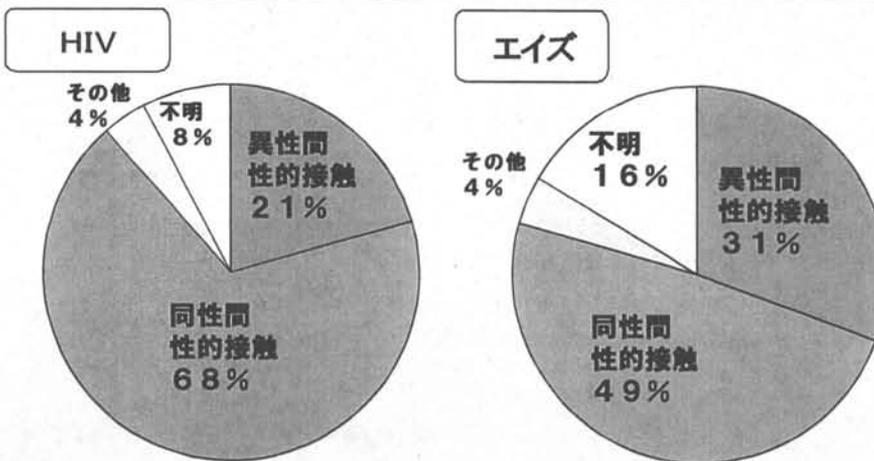
新規HIV感染者・エイズ患者 年代別内訳(平成21年)



※ 小数点第1位を四捨五入しているため、合計は100%とまらない

2009年厚生労働省エイズ動向委員会報告

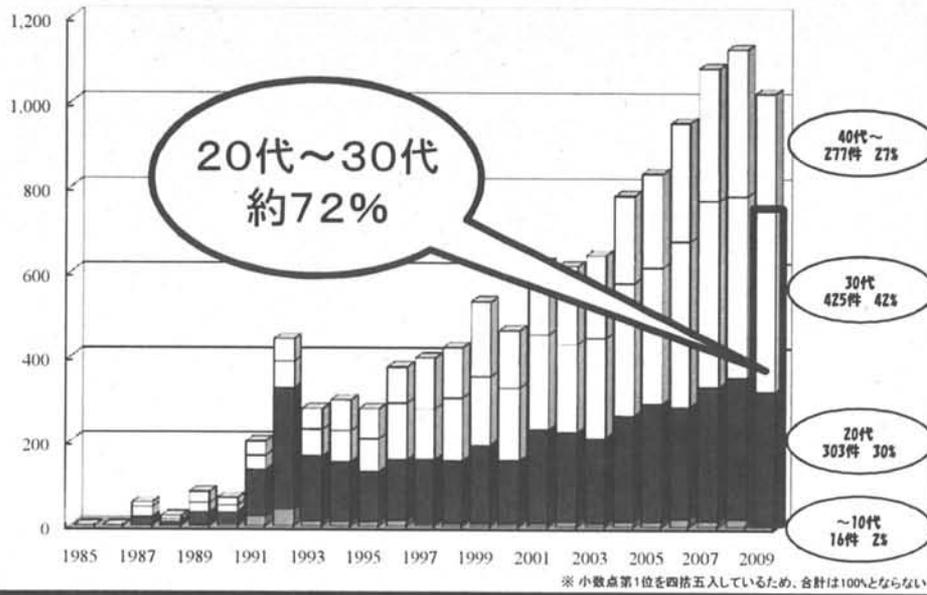
新規HIV感染者・エイズ患者 感染経路別内訳(平成21年)



※ 小数点第1位を四捨五入しているため、合計は100%とまらない

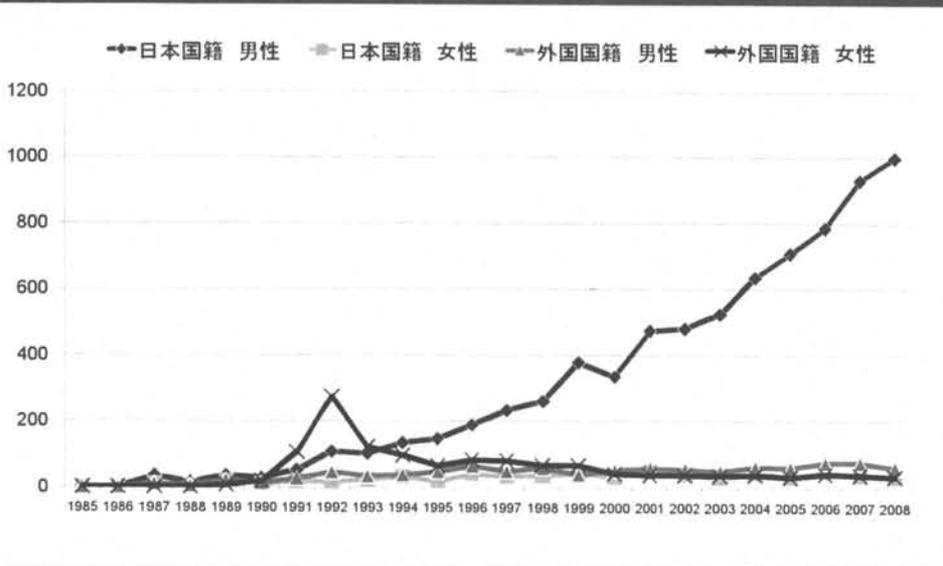
2009年厚生労働省エイズ動向委員会報告

年齢別、年次別HIV感染者報告数の推移



2009年厚生労働省エイズ動向委員会報告

日本のHIV感染者の国籍別・性別年次報告数



(出典) 先進諸国におけるエイズ発生動向、調査体制、対策の分析に関する研究 ※2006以降は発表者加工
(厚生労働科学研究費補助金(H17)・主任研究者 鎌倉光宏(慶應義塾大学))

エイズ対策の基本的方向

1 疾病概念の変化に対応した施策展開

～「不治の特別な病」から「コントロール可能な一般的な病」へ

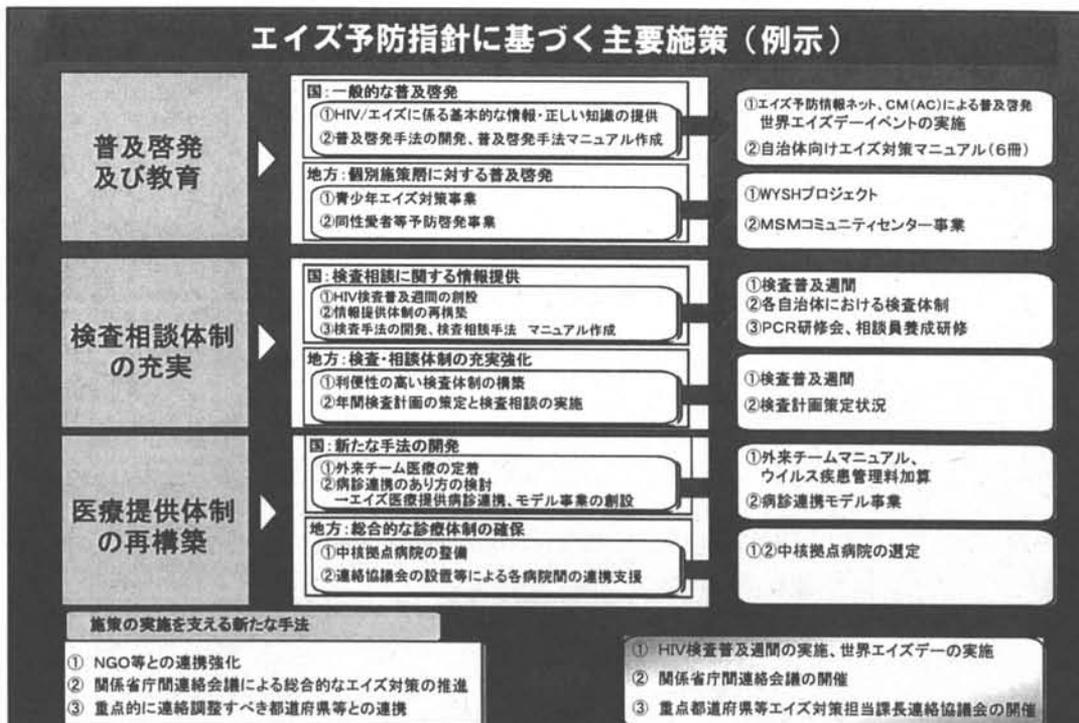
2 国と地方公共団体との役割分担の明確化

- ・ 国： リーダーシップ、技術的支援
- ・ 地方公共団体： 普及啓発、検査、医療体制の再構築

3 施策の重点化

～普及啓発及び教育、検査体制の強化、
医療提供体制の再構築

エイズ予防指針に基づく主要施策（例示）



地方自治体向けエイズ対策マニュアルの作成について

<http://api-net.jfap.or.jp/>

地方自治体における
青少年エイズ対策
／教育ガイドライン

主任研究者
京都大学大学院
医学研究科助教授
木原雅子

HIV診療における
外来チーム
医療マニュアル

主任研究者
独立行政法人国立病院
機構大原医療センター
HIV/AIDS先端医療
開発センター長
白飯琢也

地方自治体の
エイズ啓発
プログラムのための
ガイドライン

主任研究者
京都大学大学院
医学研究科教授
木原正博

地方自治体の エイズ対策を支援

男性同性間の
HIV感染対策に
関するガイドライン

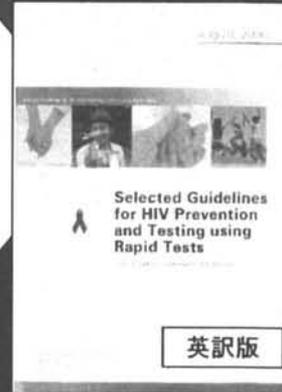
主任研究者
名古屋市立大学大
学院
看護学研究科教授
市川誠一

医療相談員のため
の外国籍HIV陽性
者療養支援ハンド
ブック

主任研究者
慶応義塾大学教授
榎井正義

HIV検査相談の
説明相談の事例集

主任研究者
神奈川衛生研究所
所長
今井光信



施策対象の重点化

		異性間 性的接触	同性間 性的接触	静注薬物 乱用	母子感染	その他
10-19	16	2	12	0	0	2
20-29	303	56	220	4	0	10
30-39	425	78	304	1	0	10
40-49	157	34	101	0	0	8
50-59	83	27	43	0	0	2
60歳以上	37	13	14	0	0	2
合計	1021	210	694	5	0	34

※感染経路不明78例を除く
2009年エイズ動向委員会報告

同性間性的接触

+

20、30歳代



約88%

普及啓発及び教育

1 一般的普及啓発

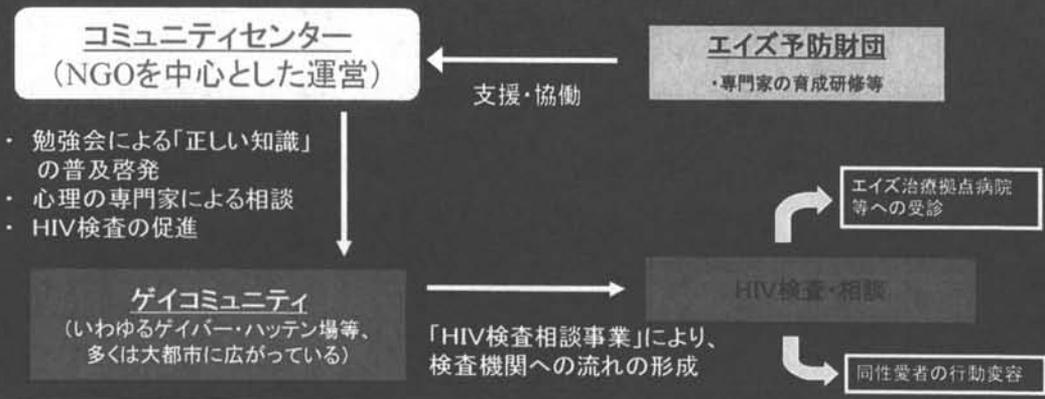
- 世界エイズデー(12月1日) 全国キャンペーン
- エイズポスターコンクール
- エイズ予防情報ネット(api-net) <http://api-net.jfap.or.jp/>

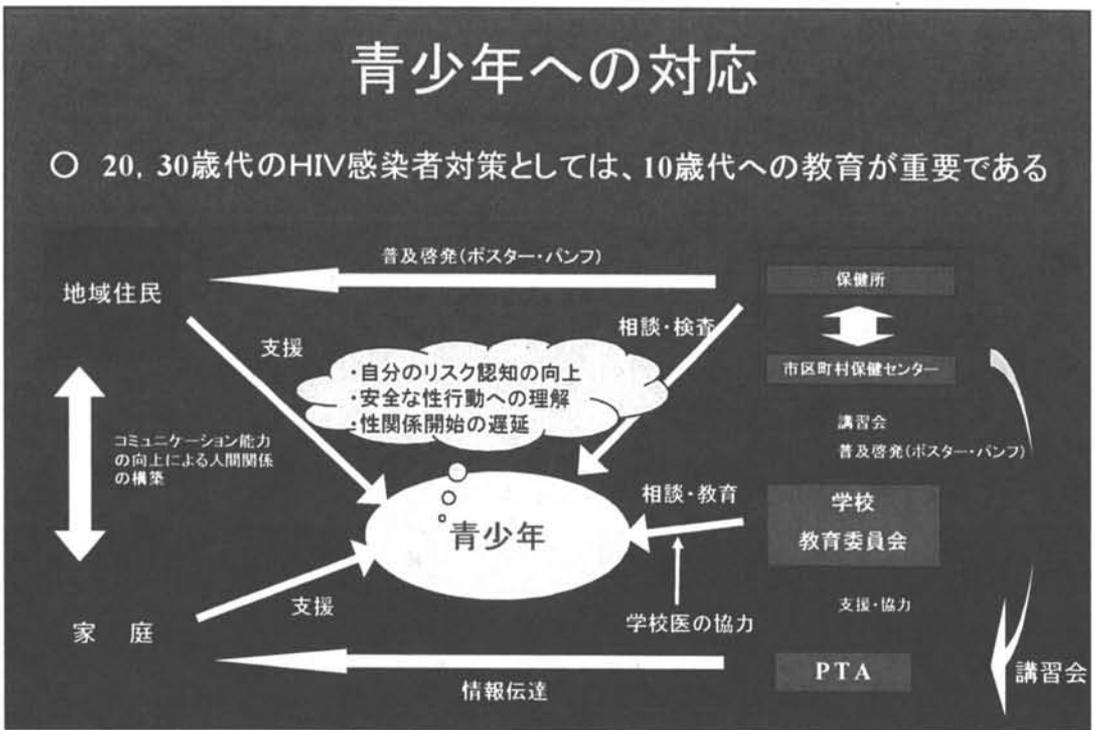
2 個別施策層に対する普及啓発等の重点化

- 同性愛者、青少年への対応

同性愛者への対応

- 公費により、大都市にコミュニティセンターを設置
- そこを拠点として、NGOや行政が協働し、コミュニティに対する普及啓発を実施
- 行動変容、検査の早期受診につなげる





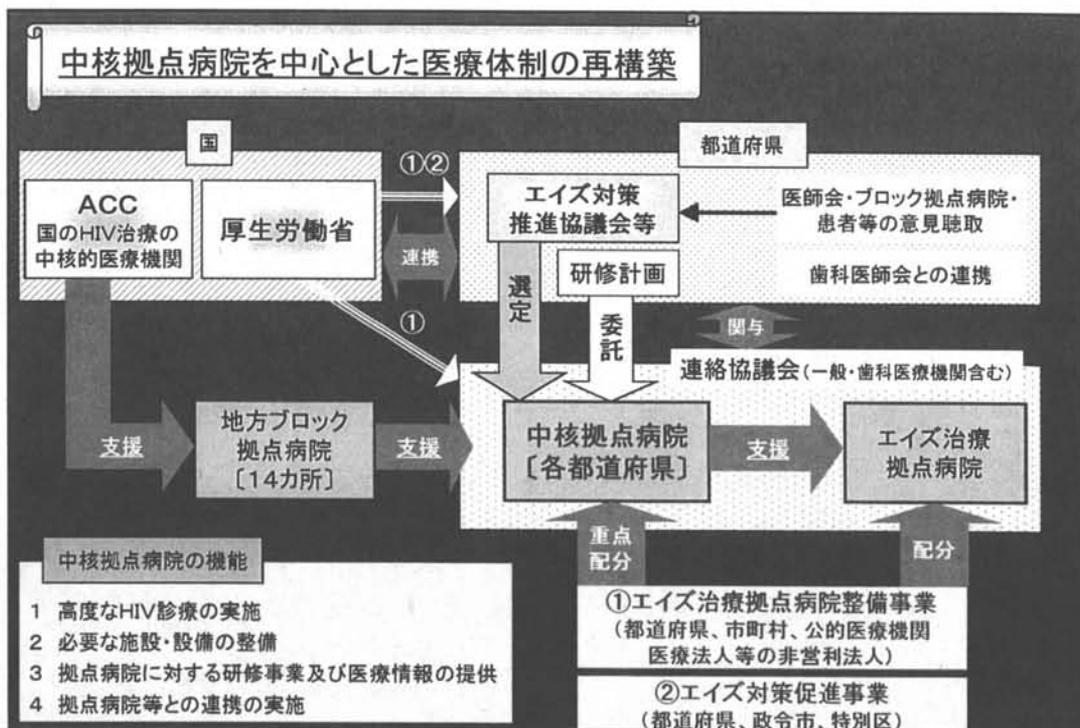
検査体制の強化

< 国の役割 >

- (1) 検査手法の開発
- (2) 行動変容につながる相談手法のマニュアル化
- (3) 検査、相談の利用に係る情報の周知
- (4) HIV検査普及週間の創設

< 地方公共団体の役割 >

- (1) 検査体制の周知
- (2) 検査計画を作成し計画的に実施
- (3) 利便性の高い検査体制・平日夜間・休日・迅速検査
- (4) 検査結果に応じた相談・カウンセリングの実施



エイズ対策の現状における課題

- ① HIV検査経験なしでエイズとの告知
- ② MSMの予防行動
- ③ 医療機関等におけるHIV検査の周知
- ④ 薬害被害者に対する恒久対策の推進

施策の実施を支える新たな手法

- 普及啓発等施策の実施におけるNGO等との連携強化
- 関係省庁間連絡会議の定期的な開催による総合的なエイズ対策の推進
- 政策評価を踏まえた都道府県等に対する重点支援
→ 感染者・患者数の多い都道府県等(17自治体)との重点的な連携

重点的に連絡調整すべき 都道府県等の選定について

選定の背景と目的

< 背景 >

従来、わが国におけるHIV感染者やエイズ患者の発生動向については、関東地方を中心として増加してきたが、近年、地方の大都市においても感染者・患者が増加傾向にある。

< 目的 >

HIV感染者やエイズ患者の報告数が特に多い地域の地方自治体と重点的に連絡調整を行うことにより、効果的なエイズ対策を進める。

選定基準

< 選定基準 >

- ① 平成19年4月から平成20年12月までの新規HIV感染者・エイズ患者合計報告数平均の人口10万人に対する割合が全国平均以上の都道府県及び当該都道府県内の政令指定都市
 - ② HIV感染者・エイズ患者の報告数が著しく多い地域
- ※ 新規HIV感染者・エイズ患者報告数は、居住地（都道府県）別報告数に基づくもの。

対象自治体（17自治体）

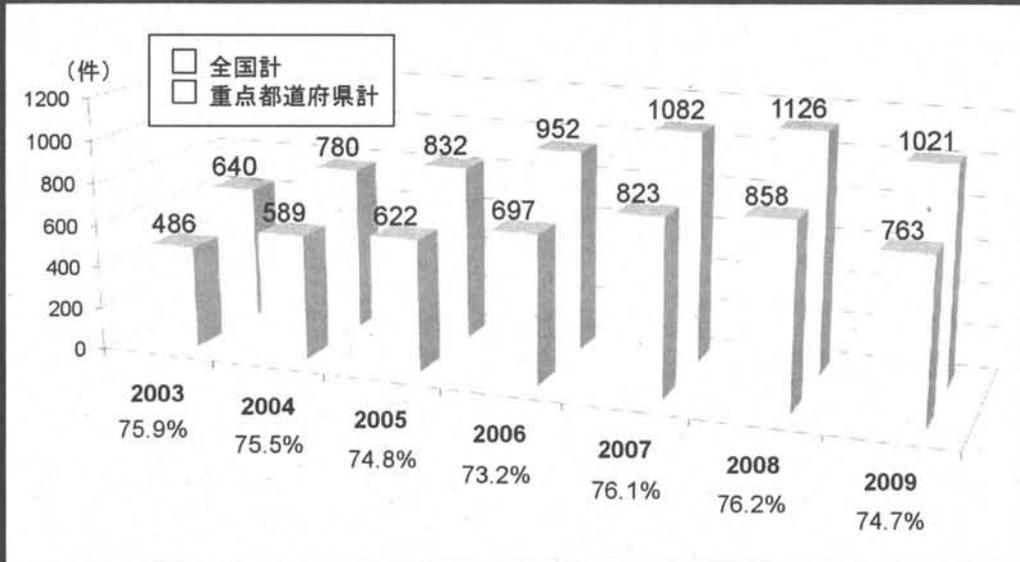
都道府県（8自治体）

埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、
愛知県、大阪府、兵庫県、沖縄県

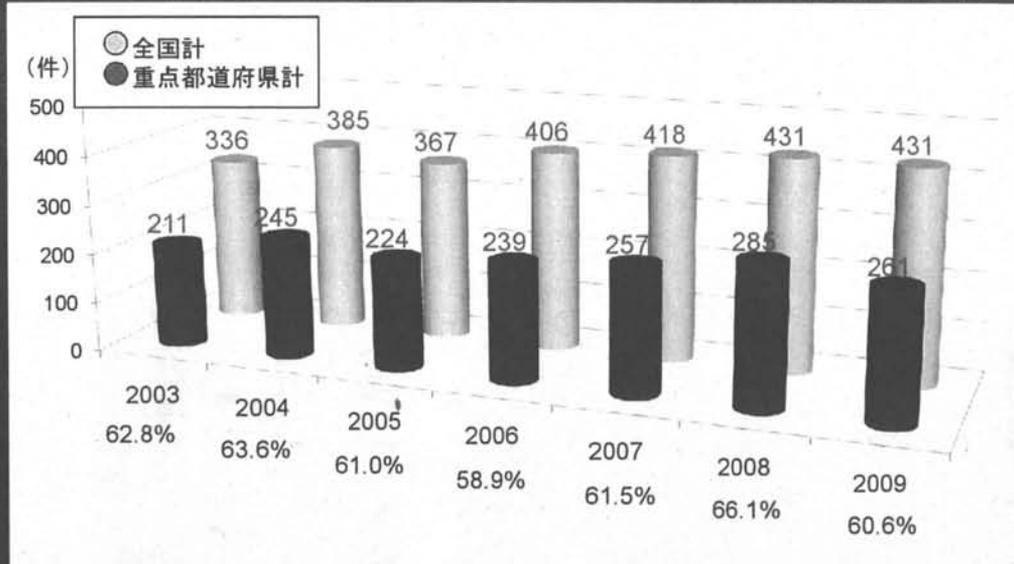
政令指定都市（上記都道府県内の9自治体）

さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、
名古屋市、大阪市、堺市、神戸市

8重点都道府県のHIV感染者報告数



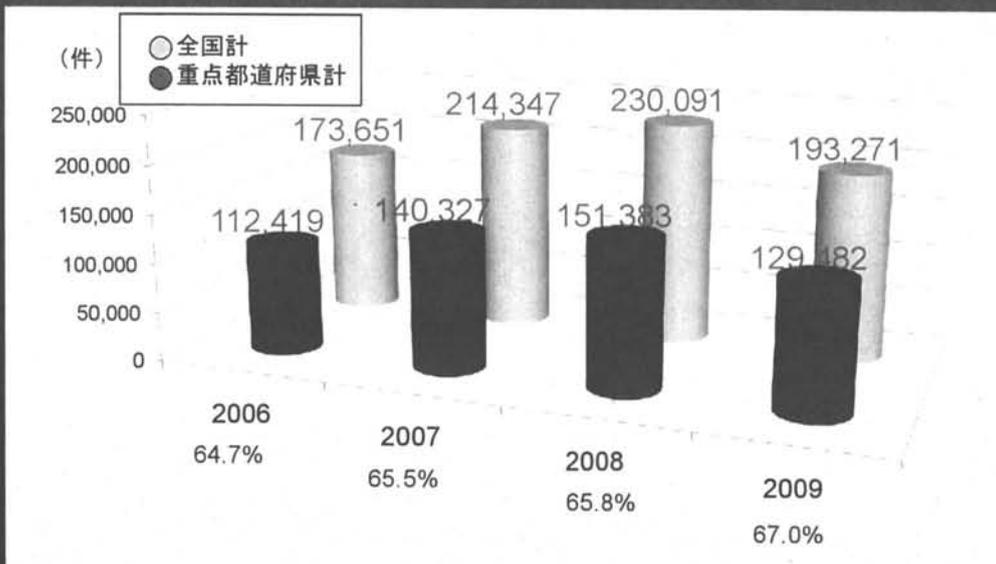
8重点都道府県のエイズ患者報告数



8重点都道府県のHIV検査件数



8重点都道府県の相談件数



平成22年度 世界エイズデーについて

世界エイズデーとは

【目的】

- 世界的レベルでのエイズまん延の防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図る

【経緯等】

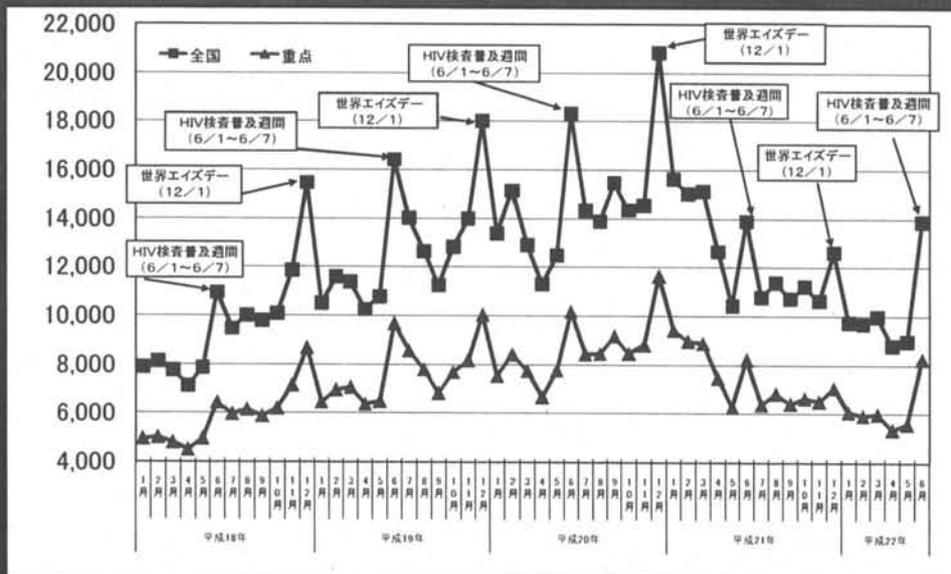
- 1988年、WHO(世界保健機関)が12月1日を“World AIDS Day”(世界エイズデー)と定め、エイズに関する啓発活動等の実施を提唱
- 国連のエイズ対策の総合調整を行うこととなったUNAIDS(国連合同エイズ計画)もこの活動を継承。本年度で23回目を迎える

平成21年度世界エイズデーの実施内容 (厚生労働省の取組)

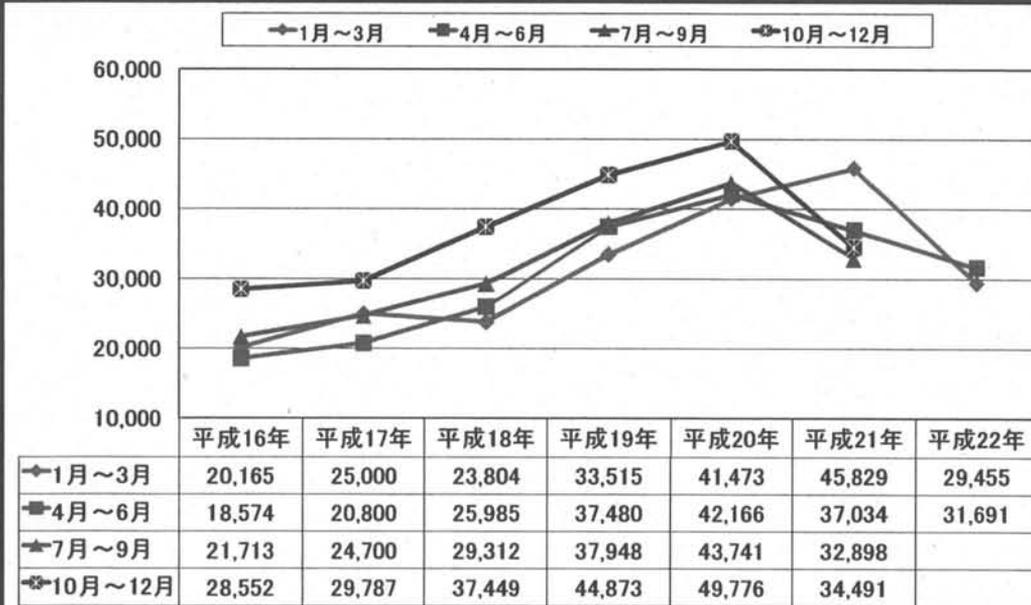
- 1 RED RIBBON LIVE 2009
- 2 街頭キャンペーン
- 3 HIV(エイズ)無料検査
- 4 エイズ啓発ポスターの配布
- 5 インターネットによる啓発
(Yahoo! JAPANとの連携等)



保健所等におけるHIV抗体検査件数の月別推移 (平成18年1月～平成22年6月)



保健所等におけるHIV抗体検査件数 四半期別・年別比較



重点都道府県におけるHIV抗体検査の実績件数について (平成19年～平成21年)

(単位: 件)

	平成19年1月～12月	平成20年1月～12月	平成21年1月～12月	H19→H21 増減率	H20→H21 増減率
埼玉県	5,338	6,721	5,582	4.6% 増	16.9% 減
千葉県	6,369	7,313	5,452	14.4% 減	25.4% 減
東京都	28,965	31,332	28,406	1.9% 減	9.3% 減
神奈川県	11,768	11,889	11,173	5.1% 減	6.0% 減
愛知県	11,240	13,034	11,033	1.8% 減	15.4% 減
大阪府	17,609	21,228	18,398	4.5% 増	13.3% 減
兵庫県	5,631	7,963	6,123	8.7% 増	23.1% 減
沖縄県	3,755	3,504	2,719	27.6% 減	22.4% 減

重点都道府県におけるHIV抗体検査の実績件数について
(平成20年～平成22年 第2四半期(4月～6月)の比較)

(単位:件)

	平成20年4月～6月	平成21年4月～6月	平成22年4月～6月	H20→H22 増減率	H21→H22 増減率
埼玉県	1,589	1,364	1,061	33.2% 減	22.2% 減
千葉県	1,865	1,224	1,487	20.3% 減	21.5% 増
東京都	7,566	7,196	6,143	18.8% 減	14.6% 減
神奈川県	2,912	2,792	2,496	14.3% 減	10.6% 減
愛知県	3,512	2,716	2,702	23.1% 減	0.5% 減
大阪府	4,324	4,680	3,562	17.6% 減	23.9% 減
兵庫県	1,927	1,351	1,196	37.9% 減	11.5% 減
沖縄県	834	1,069	601	27.9% 減	43.8% 減

平成22年度世界エイズデー

1 キャンペーンテーマ

続けよう ～Keep the promise, Keep your life～

※趣旨等については、平成22年度「世界エイズデー」実施要綱別紙を参照

2 厚生労働省が実施するイベント等(予定)

・RED RIBBON LIVE 2010

東 京：ライブ会場での無料ライブ(抽選による招待制)

名古屋：フリースペース等での無料ライブ)

・街頭キャンペーン

・HIV(エイズ)無料検査の実施

・エイズ啓発ポスターの配布

・インターネットによる啓発 など

平成23年度 厚生労働省エイズ対策関係予算 概算要求の概要について

厚生労働省エイズ対策関係予算(平成23年度概算要求額61億円)

(1) 発生の予防及びまん延の防止 6.0億円

- 具体的施策
 - ・検査体制の充実
 - ・HIV感染者等の相談窓口設置

○主な事業

HIV感染者等保健福祉相談事業	相談窓口にはカウンセラーを配置 臨時のHIV検査を実施
保健所等におけるHIV検査・相談事業	保健所等において行うHIV検査・相談

(2) 医療の提供及び国際的な連携 11.9億円

- 具体的施策
 - ・エイズ治療拠点病院を中心とする医療従事者への実務研修
 - ・エイズ治療拠点病院間の連携強化支援

○主な事業

エイズ治療拠点病院医療従事者 海外実地研修	海外のエイズ診療の豊富な医療機関へ 医療従事者を派遣
エイズ治療拠点病院地域別病院長会議	地域の病院長が集まる会議を支援
エイズ国際協力計画推進検討事業	アジア地域のエイズ担当者の国際会議

(3) 普及啓発及び教育

12.6億円

○具体的施策

- ・青少年や同性愛者等への重点的な予防啓発
- ・世界エイズデー等でエイズ予防の普及啓発イベントやインターネットによる情報提供

○主な事業

新 NGO等への支援事業	HIV感染者等で構成されるNPO等による活動を支援した感染予防の普及啓発事業
「世界エイズデー」普及啓発事業	世界エイズデー(12/1)に合わせた普及啓発事業
青少年エイズ対策事業	学校教育者向けのエイズ予防教育研修

(4) 研究開発の推進

30.1億円

○具体的施策

- ・エイズに関する基礎医学や臨床医学、社会医学的な研究

○主な事業

エイズ対策研究	予防、治療、診断法の開発や薬剤耐性・長期療養への医療基盤作り、早期発見・早期治療につなげる研究
エイズ対策研究推進事業	外国人研究者の招へい、若手研究者の育成活用

Fin.

平成 22 年度「世界エイズデー」実施要綱

1 名 称

平成 22 年度「世界エイズデー」

2 趣 旨

WHO（世界保健機関）は、1988 年に世界的レベルでのエイズまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的として、12 月 1 日を“World AIDS Day”（世界エイズデー）と定め、エイズに関する啓発活動等の実施を提唱した。

1996 年から、WHO に代わって、国連のエイズ対策の総合調整を行うこととなった UNAIDS（国連合同エイズ計画）もこの活動を継承しているところである。

我が国としても UNAIDS が提唱する“World AIDS Day”に賛同し、その趣旨を踏まえ、12 月 1 日を中心にエイズに関する正しい知識等についての啓発活動を推進し、エイズまん延防止及び患者・感染者に対する差別・偏見の解消等を図る。

3 主 題（キャンペーンテーマ）

「続けよう ～Keep the promise, Keep your life～」

趣旨等については、別紙「平成 22 年度「世界エイズデー」キャンペーンテーマについて」を参照のこと。

4 期 日

平成 22 年 12 月 1 日。ただし、地域の実情等に応じ、12 月 1 日を中心とした前後の日でも差し支えないものとする。

5 主 唱

厚生労働省

6 実施方法

(1) 厚生労働省

関係行政機関、財団法人エイズ予防財団、エイズ関連 NGO（非政府組織）等の関係団体、民間企業、報道機関等の協力を得て、全国的な啓発活動の推進を図る。主として 12 月 1 日を中心とした前後の日に記念事業を行うほか、年間を通じた普及啓発のためのキャンペーンを実施する。

(2) 都道府県、保健所を設置する市及び特別区

関係機関、関係団体等との連携を密にし、それぞれの地域の実情に応じた広報計

画、実施計画等に基づき、次の事項も参考にしながらエイズに関する正しい知識の啓発活動を展開する。

- ① 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、映画等の協力を得た広報活動の実施
- ② ポスター、パンフレット、リーフレット、ビデオ等の作成・配布等による啓発活動の実施
- ③ 研修会、講習会、講演会、シンポジウム、街頭キャンペーン等の実施
- ④ 学校、企業、地区組織等に対する呼びかけ及び協力
- ⑤ 一般住民のみならず、相談窓口職員、医療従事者、教育関係者等への啓発

なお、啓発活動を行うに当たっては、エイズに関する最新の情報を入手するとともに、平成18年3月31日付健疾発第0331001号厚生労働省健康局疾病対策課長通知「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針の運用について」を参考とすること。

7 普及啓発における留意点

(1) 個別施策層に焦点を当てた普及啓発

後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針（平成18年厚生労働省告示第89号）の趣旨を踏まえ、我が国に在住するすべての人々に対して、正しい知識の普及啓発の強化を図ること。特に、性に関する意思決定や行動選択に係る能力の形成過程にある青少年、言語的障壁や文化的障壁のある外国人、性的指向の側面で配慮の必要な同性愛者並びに性感染症としてのHIV対策を進める観点から性風俗産業の従事者及び利用者への取組を促進すること。

(2) 人権の尊重

エイズは、HIV感染後も長い無症状期を社会の一員として生活を営む病気であり、周囲の人々の理解と支援が必要であること。したがって、患者・感染者が尊厳をもって暮らせる社会づくりが必要であること。

HIVの感染力は弱く、しかも感染経路が限られているので、日常生活ではHIVに感染することはないこと。

特に医療現場における患者・感染者の受入れを改善していくために、エイズに対する社会全体の意識の向上と、エイズ診療に取り組む医療関係者への支援を訴え、患者・感染者が安心して医療を受けられる環境づくりを進めること。

(3) HIV治療の進歩と検査・早期治療の重要性

HIV治療の進歩に伴い、患者・感染者が長期間障害を持ちながらも療養できるようになったことから、平成10年4月から感染者は身体障害者の認定を受けられるようになったこと。また、身近な医療機関で適切な治療を受けられる体制がほぼ整いつつあること。

早期発見による適切な治療の効果がますます高まっていること、検査は医療機関

や最寄りの保健所等で受けることができること等の周知を図り、自発的に検査を受けやすい環境の整備に努めること。

なお、厚生労働省においては、検査・相談の利用に係る情報について、各種イベント等集客が多い機会を利用し、積極的に国民への周知を図るが、都道府県、保健所を設置する市及び特別区においても、地域の実情に応じて、積極的に情報の周知に努めること。

(4) 日本エイズストップ基金

財団法人エイズ予防財団には、「日本エイズストップ基金」が設置されており、募金を通じてNGO等を支援しているので、その活動等について周知すること。

8 その他

広報の実施に当たっては、患者・感染者等の人権や社会的背景に配慮するとともに、血友病患者やその家族に対する配慮が必要である。

平成 22 年度「世界エイズデー」キャンペーンテーマについて

1 キャンペーンテーマ

「続けよう ～Keep the promise, Keep your life～」

2 趣旨

本キャンペーンテーマは、エイズまん延防止及び患者・感染者に対する差別・偏見の解消等を図るためには、医療機関、民間企業、行政機関、NGO等のエイズ対策関係者がそれぞれの活動に取り組み続けることはもちろんのこと、我が国に在住するすべての人々がエイズ対策関係者の活動や患者・感染者に対する理解を深めるなど、HIV/エイズに対する関心を持ち続けることが重要であることを踏まえ、主として、次に掲げるメッセージを発信するものである。

① 仕事も生活も続けよう

HIVに感染している人が初めて感染を知ったときに、ショックと混乱で今までの生活が続けられないと思ってしまう。思いあまって会社を辞めてしまう。そんな話をしばしば聞きます。でも、辞める必要は全くありません。仕事を含め Keep your life、今の生活を維持し、その基盤の上に治療を考えていくことが大切です。

② 抗レトロウイルス治療を続けよう

HIV感染が分かったら、生活を維持しつつ、適切な時期に治療を開始することで、エイズの発症や発症した場合の病状の進行を抑えることが可能になります。HIVというウイルスが体内で増えることを妨げる抗レトロウイルス薬（ARV）を複数組み合わせる抗レトロウイルス治療（ART）を開始したら、途中で止めずに治療を続けることが大切です。

③ エイズの流行と闘う人達を支え続けよう

厚生労働省エイズ動向委員会の報告（2009年）では、男性同性間の性感染がHIV新規感染者報告のほぼ7割、エイズ患者報告のほぼ5割を占めています。大都市圏のゲイコミュニティで予防や検査を呼びかけてきた成果の反映ではありますが、同時に国内のHIV感染が少なくともこの10年、ゲイコミュニティを中心に広がってきたことを示唆するデータでもあります。感染の現状に対応し、予防対策は男性同性間の性感染に焦点を当てる必要があります。ただし、その努力はゲイコミュニティだけで完結するものではありません。エイズの流行に大きな影響を受けているコミュニティを取り巻く人と社会が広くその努力の必要性を理解し、支援することがエイズとの困難な闘いを継続する大きな力になります。

④ 予防と支援のメッセージを送り続けよう

エイズの流行が世界に広がり始めてから既に約30年が経過しています。何度も同じメッセージを繰り返されたのでは、さすがに心には届きません。送り手も疲れてきます。HIVはそうした厭戦ムードを糧に広がるウイルスでもあります。縁あってエイズ対策に関心

を持った人達が疲れ切ってしまうまいよう、予防、治療や支援のメッセージを楽しく送り続けられる工夫と励ましも大切です。

⑤ ユニバーサルアクセスを目指し続けよう

H I V / エイズに関する予防、治療、ケアや支援を必要とする人が、誰でもその必要なサービスを利用できる。それがユニバーサルアクセスです。日本を含む世界中の国が 2010 年 12 月末までにユニバーサルアクセスを達成することを約束しています。その約束は果たせそうにありませんが、実現に向けた努力は約束期限が過ぎても続ける必要があります。それが Keep the promise、約束を守ることです。

⑥ 関心を持ち続けよう

以上のすべてのことは、エイズ対策への社会的な理解が広がり、関心を持つ人が増えることで初めて可能になります。感染症に対する関心はその時々での社会の出来事や雰囲気によって変化しますが、H I V は社会の雰囲気や一時的な対策の盛り上がりで流行が拡大したり、終息したりするタイプのウイルスではありません。対策もまた息長く続ける必要があります。H I V 陽性者は既に会社、学校、病院、近所の商店街や同じ団地や・・・といった様々な場所で生活しています。もう既に社会の中で一緒に生きている。そのことを理解できる機会が増えれば、H I V / エイズは他人事ではないといったメッセージも、異なる意味を持って伝わってくるかもしれません。

3. 留意点

上記 2 の趣旨に対する理解の促進を図るために、本キャンペーンテーマの使用に当たっては、次に例示するメッセージを添えるもののほか、適宜、上記 2 の趣旨及びメッセージを周知するものとする。

① 例 1

続けよう ～Keep the promise, Keep your life～

エイズの原因となる H I V というウイルスに感染しても仕事をやめることはないし、生活も続けられます。治療の進歩は、安心して検査を受けられる条件を整え、予防対策にも貢献しています。エイズに取り組み続けたたくさんの方がいてここまできました。社会の理解が広がり、関心を持つ人が増える。治療も予防も、そのことに支えられています。

② 例 2

続けよう ～Keep the promise, Keep your life～

仕事も生活も続けよう
抗レトロウイルス治療を続けよう
エイズの流行と闘う人達を支援し続けよう
予防と支援のメッセージを送り続けよう
ユニバーサルアクセスを目指し続けよう
関心を持ち続けよう

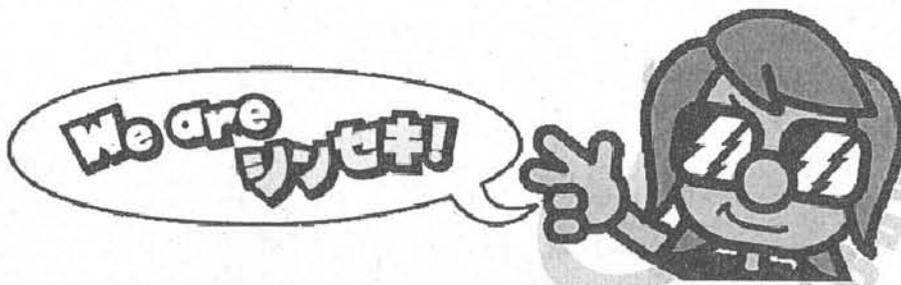
明日を守る。生活を守る。今こそそのメッセージを伝えたい。
やめないこと、続けることが大切だ。



レッドリボンライブ 総合プロデューサー
山本シュウ (ラジオDJ)



「We are シンセキ!」とは?



山本シュウとHIV/エイズ

- ① HIV/エイズの問題に関心を持ったきっかけ
- ② RED RIBBON LIVEとは?立ち上げに至る経緯

これまでのRED RIBBON LIVEの活動

RED RIBBON LIVE 2006

(2006年11月28日)渋谷AX

【出演者】

絢香、アンジェラ・アキ、櫻井和寿(Mr.Children)、SHAKALABBITS、
TERU&TAKURO(GLAY)(ビデオ出演)、一青窈、
山田耕平withアフリカンバンド、
若旦那(湘南乃風)

【TALK出演者】

蒼井そら、赤枝恒雄、
アメリカザリガニ、岩本愛吉、
伊藤かずえ、伊藤千秋、ICHIGO、
遠藤憲昭、小川元、落合隼亮、
加藤鷹、KANA、きゃんひとみ、
ケロ口軍曹、Seiji(AcQuA EP)、
斉藤一美、
しずちゃん(南海キャンディーズ)、
芹沢太麻樹、TKO、DJJIRO、
中澤裕子、中邑真輔、橋本道代、
藤田志穂、藤丸由華、松本ともこ、堀之内剛



RED RIBBON LIVE 2007

(2007年11月30日) 渋谷AX



【出演者】

絢香、稲本響、押尾コータロー、加藤ミリヤ、
Skoop on Somebody、田中ロウマ、
TERU&TAKURO (GLAY)、山田耕平、若旦那(湘南乃風)

【TALK出演者】

赤枝恒雄、紅音ほたる、岩本愛吉、加藤鷹、
佐伯日菜子、蝶野正洋、中邑真輔、堀ノ内剛、sifow藤田志穂

RED RIBBON お笑いLIVE in BOXX

(2007年11月30日) 渋谷BOXX

【出演者】

アメリカザリガニ、オーケイ、
OverDrive緒方、チョップリン、TKO、
なすなかにし、のろし、ヒカリゴケ



RED RIBBON TALK & LIVE

(2008年5月27日) 渋谷BOXX ～HIV検査に行こう!～

【出演者】

岡本真夜、押尾コータロー、K、SunSet Swish、はるな愛、松本隆博

【TALK出演者】

相方不在(フットサルチーム・カレッジ所属)、
アメリカザリガニ、伊藤かずえ、遠藤憲昭 (DEVILOCK)、
菊池 嘉、高嶋政伸、TKO、藤田志穂、プリンセス天功、
堀之内剛(プロスノーボーダー)、美元、安田大サーカス



RED RIBBON LIVE 2008

(2008年11月29日) 渋谷AX



【出演者】

alan、アンジェラ・アキ、押尾コータロー、SEAMO、HYDE、
和代人平(画家/光絵パフォーマンスアーティスト)

【TALK出演者】

今井絵理子、岩本愛吉、加藤鷹、玄秀盛、小林麻央、
小松成美(作家)、佐伯日菜子、TKO、TERU (GLAY)、
佐々木恭子(アソシエイトナウンサー)、堀之内剛、YANAGIMAN

RED RIBBON LIVE 2009 Spring

(2009年5月31日) 渋谷AX

～HIV検査に行こう！～

【出演者】

alan、mihimaruGT、LOVE、Lil'B、LADYBiRD feat.ソニー



【TALK出演者】

池上千寿子、岩本愛吉、菅野結以 (Popteenモデル)、
小森純 (Popteenモデル)、SHEILA、孫暉 (そんい)
(Popteenモデル)、椿姫彩菜、TKO、樋口智子
(Popteenモデル)、マリエ、早稲田大学公認イベント
企画サークルqoon、wAds

RED RIBBON LIVE 2009 in OSAKA

(2009年11月23日) アメリカ村三角公園—御津公園

【出演者】

KARIYA、Safalii、BRIGHT、PENGIN、松下優也、RYTHEM

【ゲストコメンテーター】

上平朝子

(独立行政法人国立病院機構大阪医療センター感染症内科科長)



RED RIBBON LIVE 2009

(2009年11月28日) 渋谷AX

【出演者】

押尾コータロー、
TAKE(Skoop On Somebody)、Chara、三浦大知、
水木一郎、May J.、RYO(ケツメイシ)



【TALK出演者】

青木英李 (Popteenモデル)、岩本愛吉、
及川奈央、加藤鷹、後藤正善、小松成美、
佐伯日菜子、鈴木奈々 (Popteenモデル)、
孫暉 (そんい) (Popteenモデル)、TKO、
TERU (GLAY)、ヒカリゴケ、村尾信尚 (NEWSZEROメインキャスター)



今年のRED RIBBON LIVEの活動

▼ HIV検査普及週間イベント

RED RIBBON SUMMIT 2010 ～HIV検査数向上大作戦～

(2010年5月30日)

HIV/エイズの正しい知識を伝えるとともに、HIV検査の重要性を訴え、実際に検査に行く人が増えるにはどうすればよいのかを、インターネット動画配信サービス「ニコニコ動画」にて生討論。終了直後には延長戦トークを生放送(約2万人が視聴)

(番組URL: <http://live.nicovideo.jp/gate/lv17475376>)

【出演者】

蒼井そら、岩本愛吉、
AIDS文化フォーラムin横浜、後藤正善、
津田大介(メディアジャーナリスト)、藤本美貴、
宮台真司(社会学者)、ヨシナガ(個人サイト「僕の見た秩序。」管理人)、
早稲田大学公認イベント企画サークルqoon、wAds



▼ HIV検査普及週間と世界エイズデーとをつなぐ継続的な普及啓発活動

RED RIBBON かいぎ

月に1回、HIV/エイズの普及啓発をテーマにニコニコ動画のチャンネル生放送で視聴者参加型のトーク番組を放送
(チャンネルURL: <http://ch.nicovideo.jp/channel/ch954>)

● 第1回(2010年6月23日)

月1の「RED RIBBONかいぎ」での今後の企画、RED RIBBON LIVEの今年の企画について、視聴者と共に井戸端会議を実施

【出演者】

オジンオズボーン(お笑い芸人)、加藤鷹、南々井梢(作家)

● 第2回(2010年7月28日)

総合プロデューサー山本シュウが5度目の開催となるRED RIBBON LIVEの今年のビジョンを視聴者からの意見を交えながら紹介するとともに、HIV/エイズの現状とRED RIBBON LIVEの歴史を解説

● 第3回(2010年7月28日)

「若者はHIV/エイズの知識をどれくらい持っているのか？」

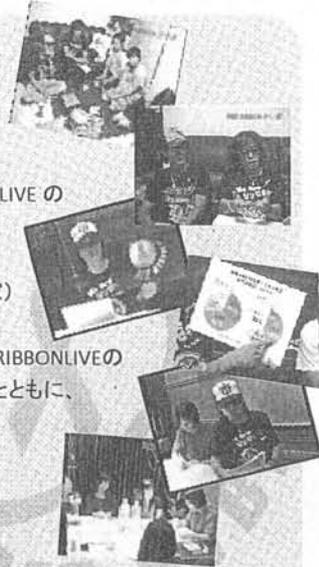
「知識が広がらないのはなぜか？」

「性についてもっと話した方がいい？」

をキーワードに性感染症対策のエキスパートと一般女性がガールズトークを展開

【出演者】

堀 成美(聖路加看護大学助教)



▼ 世界エイズデーイベント (予定)

RED RIBBON LIVE 2010

(2010年11月27日(土))

【東京】

ライブ会場での無料ライブ(抽選による招待制)

RED RIBBON LIVE 2010 in NAGOYA

(2010年11月21日(日))

【名古屋】

フリースペース等での無料ライブ

山本シュウの普及啓発に対する思い

- ① 「おせっかい」 をするということ
- ② 「できることを、
できる範囲で、
あきらめないで！」

自治体担当者の皆さんへのメッセージ

We Are  シンセキ!

ご静聴ありがとうございました！

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会
平成22年9月22日 厚生労働省12階専用第15・16会議室

HIV検査体制の充実 保健所等におけるHIV検査相談件数減少に 関する緊急全国調査の結果報告

慶應義塾大学医学部
微生物学・免疫学教室
加藤真吾

保健所等におけるHIV検査相談件数減少 に関する緊急全国アンケート調査

- 保健所
 - 送付施設数： 538
 - 回答施設数： 377 (70.1%)
 - 検査実施施設数： 376 (99.7%)
 - 重点都道府県等： 122 (32.4%)

- 特設検査相談施設
 - 送付施設数： 19
 - 回答施設数： 14 (74%)
 - 重点都道府県等： 14 (100%)

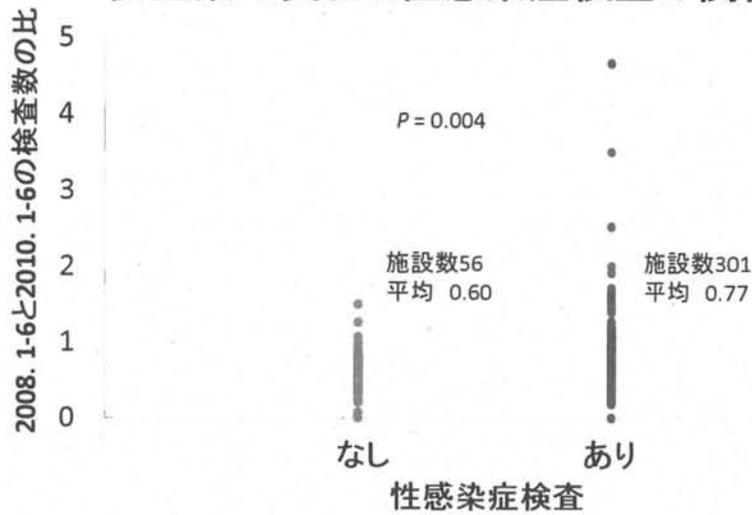
保健所における受検者数と陽性判定数の変化

		2008年1-6月		2010年1-6月		前々年比
検査数 (施設平均)	全国	43,012	(117.5)	32,203	(88.0)	75%
	重点都道府県等	20,842	(178.1)	15,838	(135.4)	76%
	その他	22,170	(89.0)	16,365	(65.7)	74%
陽性者数 (施設平均)	全国	108	(0.30)	85	(0.23)	79%
	重点都道府県等	71	(0.61)	51	(0.44)	72%
	その他	37	(0.15)	34	(0.14)	92%
陽性率	全国	0.25%		0.26%		105%
	重点都道府県等	0.34%		0.32%		95%
	その他	0.17%		0.21%		124%

特設検査相談施設における受検者数と陽性判定数の変化

	2008年1-6月		2010年1-6月		前々年比
検査数 (施設平均)	10,721	(974)	9,113	(828)	85%
陽性者数 (施設平均)	66	(6.0)	73	(6.6)	111%
陽性率	0.62%		0.80%		130%

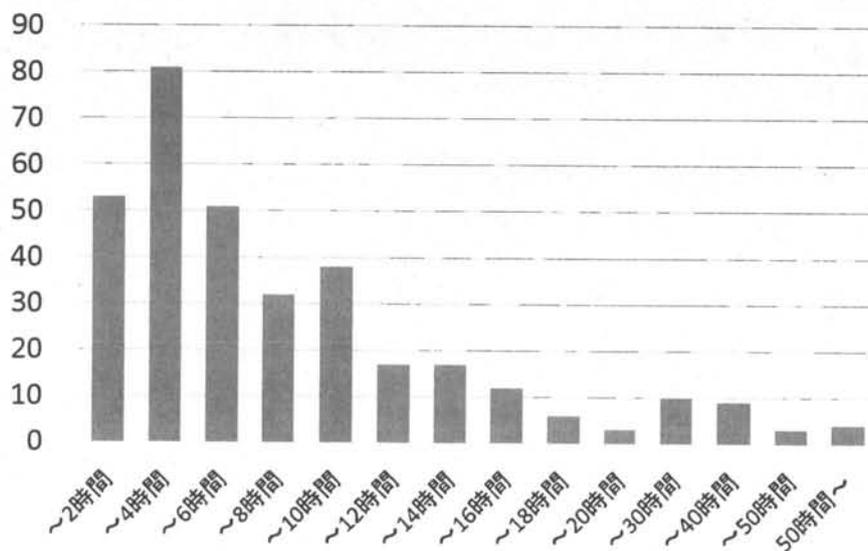
保健所における 検査数の変化と性感染症検査の関係



検査数減少要因の分析

	区分	施設数	前々年比	確率
他の性感染症検査	あり	301	0.77	P = 0.004
	なし	56	0.60	
検査様式	通常	151	0.70	P = 0.018
	即日	194	0.80	
検査時間	月8時間未満	197	0.76	P = 0.32
	月8時間以上	138	0.71	
予約制	なし	97	0.74	P = 0.97
	あり	259	0.74	
予約数超過	なし	152	0.71	P = 0.033
	あり	64	0.86	

保健所の月間検査時間数の分布



1施設当たりの平均検査担当者数の変化

	2008年9月	2010年9月	増加施設数	減少施設数
全国	4.21人	4.27人	37	30
重点都道府県等	5.14人	5.20人	14	9
その他	3.78人	3.84人	23	21

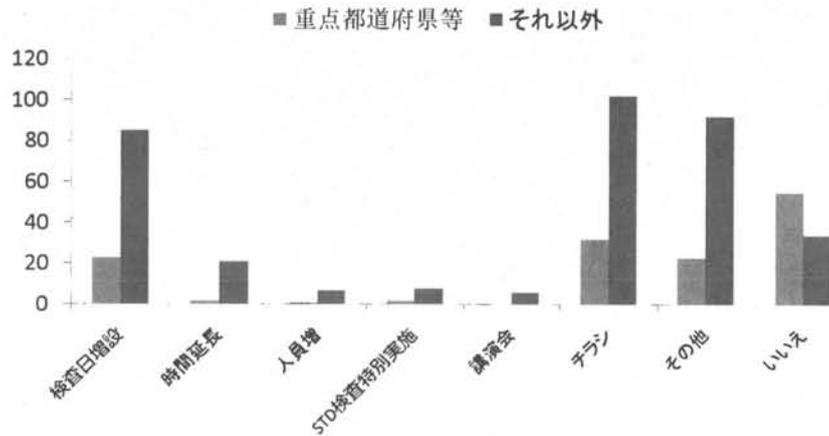
予約制について

	保健所				特設検査相談施設	
	全国		重点都道府県等			
あり	263	(72.8%)	71	(61.2%)	5	
上限あり	218	(82.9%)	64	(90.1%)	5	
上限超過あり	64	(29.4%)	14	(21.9%)	3	
推定超過数 (月あたり)	444人	(8.3%)	177人	(6.7%)	390人	(25.7%)

人員不足を感じるか？

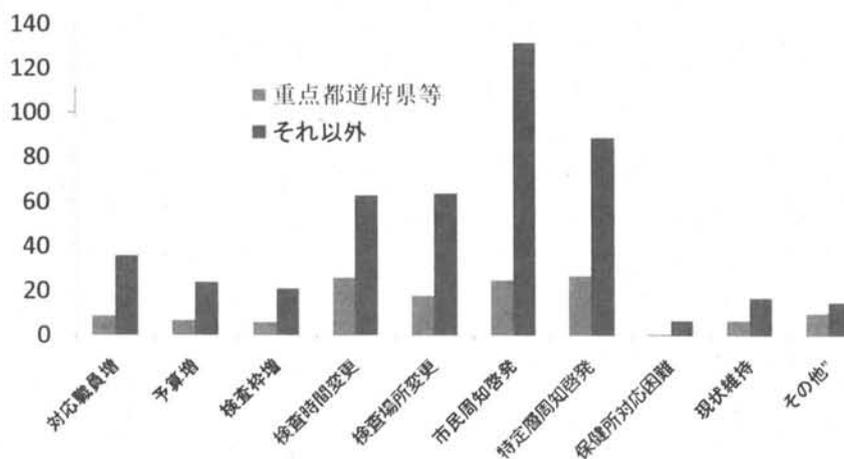
	全国		重点都道府県等	
	上限超過あり	それ以外	上限超過あり	それ以外
いいえ	47	261	11	89
はい	19	36	3	13
無回答	0	3	0	1

検査週間に特別な活動を実施したか？



その他: ポスター、パネル、広報、新聞、広報誌、迅速検査など

検査数回復あるいは増加のための対策は？



その他: 迅速検査、マスコミの利用など

平成 22 年 8 月 31 日

各 保 健 所 長 様

厚生労働科学研究補助金エイズ対策研究事業
HIV 検査相談体制の充実と活用に関する研究
研究代表者 加藤真吾 (慶應義塾大学医学部
専任講師)
研究分担者 今井光信 (田園調布学園大学 教授)
研究分担者 中瀬克己 (岡山市保健所 所長)

HIV 検査に関する緊急全国アンケート調査協力をお願い (依頼)

厚生労働省の研究事業につきましては、日頃より格別のご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

昨年来、新型インフルエンザウイルスの流行を境として、我が国の保健所等における HIV 検査相談件数に減少傾向がみられるようになり、それにともない保健所等で判明した陽性者数も大幅に減少しました。この減少傾向は新型インフルエンザの流行が落ち着いた今年になっても続いており、見過ごすことにできない状況になっています。この緊急アンケート調査は、厚生労働省疾病対策課から当研究班への依頼 (本年 8 月 13 日付) に基づき、最近の保健所等における HIV 検査相談件数減少の原因を探り、今後の HIV 検査相談体制の向上を図るための有効な対策を立案するために実施されるものです。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、別添のアンケート用紙を平成 22 年 9 月 11 日 (土) までに、返信用封筒にて郵便でご返送いただけますようお願いいたします。なお、一つの保健所が複数の HIV 検査施設 (保健センター、委託検査相談など) を管轄する場合は、この用紙をコピーしていただき、施設ごとにアンケートにお答えいただけますようお願いいたします。また、このアンケート結果を公的会議、学会、学会誌等に公表する場合は集計結果のみを開示し、個別の保健所のデータについては、特別に許可を得た場合を除き公表することはありません。

なお、本調査は全国保健所長会のご了解を得ていることを申し添えさせていただきます。

記

- 1 調査目的 保健所における HIV 検査相談件数減少の原因を探り、今後の HIV 検査相談体制の向上を図るための有効な対策を立案する
- 2 調査票回答者 保健所長 あるいは HIV 検査相談事業担当者
- 3 調査票回答期限 平成 22 年 9 月 11 日 (土)
- 4 調査票回答方法

返信用封筒による郵送

宛先 〒215-8542 川崎市麻生区東百合ヶ丘 3-4-1

田園調布学園大学 人間福祉学部 教授 今井光信

(締め切り期日が迫っている場合、下記のメールアドレス経由でご回答頂いても結構ですが、その場合も返信用封筒による郵送での回答も必ずお願い致します。)

(宛先) Email: kensahan@m10.alpha-net.ne.jp

(本調査に関する問い合わせ先)

下記メールにより今井光信宛にお願い致します。

Email: kensahan@m10.alpha-net.ne.jp

保健所等における HIV 検査相談件数減少に関する緊急全国調査

保健所名： _____ 所属： _____
連絡担当者： _____ 職種： 医師・保健師・事務・その他（ _____ ）
連絡先： TEL _____ FAX _____ E-mail _____

- 貴施設では HIV 検査を行っていますか？（はい・いいえ）
→「はい」とお答えになった施設は以下の設問にお答えください。
- 平成 21 年 1-6 月期と平成 22 年 1-6 月期の検査実施状況をお答えください。
平成 21 年 1-6 月期 HIV 検査数： _____ 件、確認検査陽性数： _____ 件
平成 22 年 1-6 月期 HIV 検査数： _____ 件、確認検査陽性数： _____ 件
- HIV 検査と同時に HIV 以外の性感染症検査を実施していますか？（はい・いいえ）
→「はい」とお答えになった場合、実施している検査項目をすべて挙げてください。
ア. 梅毒 イ. クラミジア抗体 ウ. クラミジア抗原 エ. B 型肝炎 オ. C 型肝炎 カ. その他 [_____]
- HIV 検査相談の実施方法について質問します。
 - HIV 検査相談を実施している曜日と時間をご記入ください。
例 (通常) (即日) (定期) (イベント) 検査： 火曜日 / (月) (年) _____ 回 実施時間： 13:00 ~ 15:00
(通常・即日) (定期・イベント) 検査： _____ 曜日 / (月) (年) _____ 回 実施時間： _____ : _____ ~ _____ : _____
(通常・即日) (定期・イベント) 検査： _____ 曜日 / (月) (年) _____ 回 実施時間： _____ : _____ ~ _____ : _____
(通常・即日) (定期・イベント) 検査： _____ 曜日 / (月) (年) _____ 回 実施時間： _____ : _____ ~ _____ : _____
 - 予約制ですか？（はい・いいえ）
 - 予約制の場合、予約数に上限がありますか？（はい → [_____] 人・いいえ）
 - 検査希望者数がこの上限を上回ることがありますか？（はい・いいえ）
→「はい」とお答えになった場合、上限を上回る検査希望者数は 1 検査日あたり平均何人ですか？（ _____ ）人
また、予約上限を上回った検査希望者に対してどのように対処しておられますか？
ア. 他の検査施設を紹介する イ. 次回以降の予約日に優先的に受け入れる ウ. 特別な対処はしていない
エ. その他 _____
- 検査相談の実施体制について質問します。
 - 現在の検査相談担当者の合計人数と職種別人数をご記入ください。また、2 年前（平成 20 年 9 月頃）と比べて変化があった場合は、当時の合計人数と職種別人数もご記入ください。
現在： 合計（ _____ ）人： 医師（ _____ ）人、保健師（ _____ ）人、看護師（ _____ ）人、検査担当職員（ _____ ）人、その他 _____（ _____ ）人
2 年前： 合計（ _____ ）人： 医師（ _____ ）人、保健師（ _____ ）人、看護師（ _____ ）人、検査担当職員（ _____ ）人、その他 _____（ _____ ）人
 - 受検者 1 人に対して、他の性感染症の検査相談も実施している場合はそれも含めて、平均どのくらいの時間をかけていますか？（ _____ ）分間（5 分単位でご記入ください。）
 - 検査相談を実施する上で、担当者の人員不足を感じることはありますか？（はい・いいえ）
→「はい」とお答えの場合、その合計人数と職種別人数をご記入ください。
合計（ _____ ）人： 医師（ _____ ）人、保健師（ _____ ）人、看護師（ _____ ）人、検査担当職員（ _____ ）人、その他 _____（ _____ ）人
- 平成 22 年 6 月の検査普及週間に特別な活動を実施しましたか？（はい・いいえ）
→「はい」とお答えの場合、具体的な実施内容をお答えください。（複数回答可）
ア. HIV 検査日の増設 イ. 定期の HIV 検査日の検査時間の延長 ウ. 定期の HIV 検査日の人員の増加
エ. 性感染症検査の特別実施 オ. 検査普及のための講演会の実施 カ. チラシ等の配布
キ. その他 _____
- この設問は、担当課長あるいは係長がお答えくださるようお願いいたします。
貴施設での検査件数の回復あるいは増加のために以下のどのような対策が有用とお考えですか？複数回答の場合は有用順にお願いいたします。また実施可能性について、○可能、△不明だが試みるべき、×かなり困難、でお答えください。
①対応職員増 ②予算増 ③検査枠の増 ④検査時間帯の変更（夜間や回数増加等）
⑤検査場所の変更（利便性の高い場所での実施等） ⑥市民全般への周知・啓発 ⑦特定施策層への周知・啓発
⑧保健所の対応は困難 ⑨現状のままでよい ⑩その他（具体的に _____ ）
回答例 ④○、⑦○ ③△. ご回答 _____
また、全国あるいは貴地域での検査数減少の原因についてのお考えをお聞かせください。

- 今後、HIV 検査相談件数を増加させる等、HIV 検査相談体制をさらに充実させるために、貴施設の自治体担当本課、あるいは厚生労働省に要望したいことがございましたら裏面に記入ください。

ご協力大変ありがとうございました。



エイズ予防財団 の取組

財団法人エイズ予防財団

事務局次長 中村正
総務課主任 柏崎正雄

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会

日時: 2010年9月22日(水) 13:30~16:35

場所: 厚生労働省12階 専用第15・16会議室

エイズ予防財団の紹介

□ 設立:

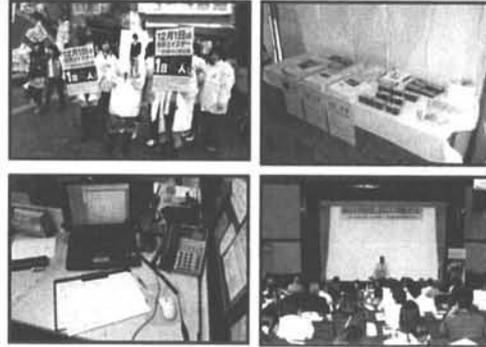
1987年(昭和62年)2月の政府による「エイズ問題総合対策大綱」の一部を実施するため、民間の協力の下、厚生省(当時)の許可により、同年6月に設立。

□ 目的:

エイズの予防のための知識普及及びエイズの予防治療等の研究助成並びにエイズに関する国際的な情報交換等を行い、もって、国民の保健福祉の向上に寄与すること。

エイズ予防財団の事業内容

- ①啓発・普及
- ②相談
- ③研修
- ④支援
- ⑤国際協力
- ⑥調査・研究



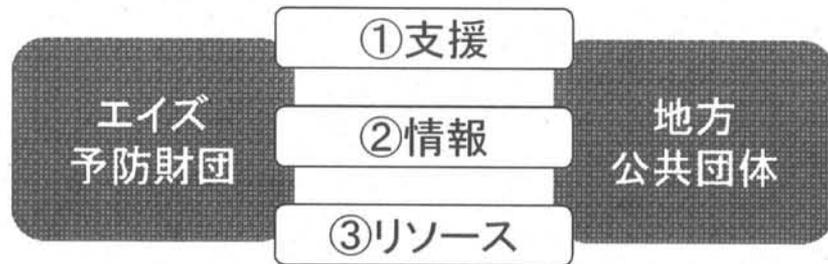
⑦日本エイズストップ基金

日本エイズストップ基金は、エイズ対策に関する募金活動、チャリティ事業及び個人の寄付等の金銭的支援の受け皿として、平成5年4月に財団法人エイズ予防財団に設置されました。寄付金を、エイズ関連のボランティア団体に助成し、事業の経費への支援を行っています。助成先及び助成額については、日本エイズストップ基金運営委員会で決定しています。

平成22年度日本エイズストップ基金助成(第18回)

エイズ患者・HIV感染者に対する社会的支援事業	エイズ患者・HIV感染者等に対する電話相談事業	エイズ予防啓発事業
NPO法人動くゲイとレズビアンのかみ(アカー)	NPO法人 AIDSネットワーク横浜	AIDS文化フォーラムin横浜 組織委員会
HIV陽性者参加支援スカラシップ委員会	せかんどかみんぐあうと	NPO法人現代美術研究会
ライフエイズプロジェクト(LAP)	NPO法人りょうちゃんず	HIV/エイズ学習研究会
LIFE東海		長崎ウエスレヤン大学学生啓発活動グループ サンファンデック
NPO法人レッドリボンさっぽろ		社団法人 広島県臨床検査技師会
		NPO法人緊急的(エキゾチック)倶楽部
		早稲田大学公認イベント企画サークル-qoon
		wAds2010実行委員会

エイズ予防財団の役割 (地方公共団体との協力)



エイズ予防財団の役割 (地方公共団体との協力)

① 支援

■ HIV検査・相談事業

- 夜間・休日の検査・相談事業の実施
- イベント等の集客数の多い機会と連動した臨時検査の実施

保健所でのHIV検査相談に加え、さらなるHIV検査相談の機会を創り出すために、スタートアップ期間(2年間)を対象として実施していただく事業です。

■ 中核拠点病院相談事業

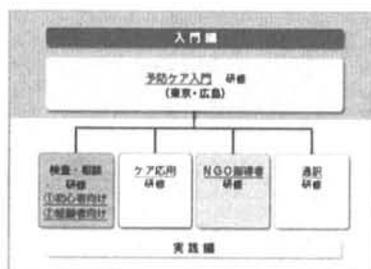
- 各都道府県の中核拠点病院への相談員の配置(今年度:25の病院)

各都道府県におけるHIV感染者等への支援をバックアップします。

■相談員養成研修事業

<http://api-net.jfap.or.jp/training/index.html>

5月20日～21日	検査相談応用編（於：東京）
7月1日～2日	予防・ケア入門編（於：東京）
8月26日～27日	検査相談基礎編（於：東京）
10月16日～17日	予防・ケア入門編（於：東京）
1月20日～21日	ケア応用編（於：東京）



エイズ対策担当者の職種にかかわらず、基礎から応用まで学習できます。

エイズ予防財団の役割 (地方公共団体との協力)

②情報

■エイズ予防財団 電話相談

<http://api-net.jfap.or.jp/inspection/telephone.html>

- フリーダイヤルによる電話相談 **0120-177-812**
(受付：月～金10:00-13:00、14:00-17:00)
- 電話自動応答システム(JFAPエイズサポートライン)による
8カ国でのエイズ予防情報の提供(東京・神戸)



■エイズ・レポート

<http://api-net.jfap.or.jp/knowledge/aidsreport/index.html>

- 年2回の発行
- 地方公共団体のエイズ対策担当部署、寄付者、
協力者、企業、NGOの皆様へ情報紙として無料提供



■NGOデータベース

<http://api-net.jfap.or.jp/ngo/index.html>

●更新時期: 毎年3月

●登録団体数: 101

北海道・東北	9
関東	44
甲信越・北陸	7
東海・近畿	23
中国・四国	6
九州・沖縄	9
全国・その他	3



エイズ予防財団の役割 (世界エイズデーに向けて)

③リソース

■世界エイズデーキャンペーンテーマ

http://api-net.jfap.or.jp/event/aidsday/2010/H22campaign_theme.html

●平成22年度は、

「**続けよう～Keep the promise, Keep your life～**」
に決定

仕事も生活も続けよう
抗レトロウイルス治療を続けよう
エイズの流行と闘う人達を支え続けよう
予防と支援のメッセージを送り続けよう
ユニバーサルアクセスを目指し続けよう
関心を持ち続けよう



■エイズ知識啓発普及事業

<http://api-net.jfap.or.jp/knowledge/enlightenPamph.html>

- エイズの啓発・普及で使用していただけるパンフレットや啓発資材の提供



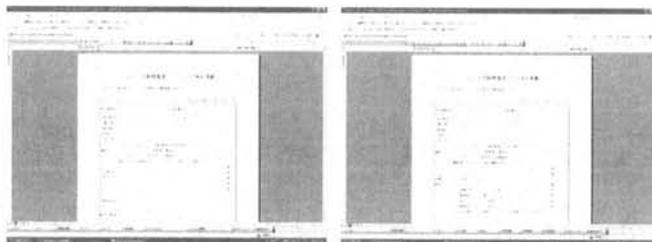
●啓発用パンフレット・啓発用グッズの申込み方法

- ①API-Netで「啓発用パンフレット」のページ

(<http://api-net.jfap.or.jp/knowledge/enlightenPamph.html>)に入る



- ②「啓発用パンフレット申込用紙」のページ
(http://api-net.jfap.or.jp/knowledge/word/pamphlet_youshi.doc)
もしくは
「啓発用グッズ申込用紙」のページ
(<http://api-net.jfap.or.jp/knowledge/word/goods.doc>)に入る



- ③用紙(Word文書)をダウンロードして、必要事項を記入し、
エイズ予防財団までFAXにて(03-5259-1812)送信していただく

■「世界エイズデー」ポスターコンクール

http://api-net.jfap.or.jp/event/aidsday/2010poscon/2010p_contest.html

- 平成22年度「世界エイズデー」のポスターのデザインを公募し、約230点の作品から、小学生の部・中学生の部・高校生の部・一般の部の最優秀作品を選出。
- ポスターやミニパンフレットのデザインとして、年間を通じて使用。



世界エイズデーなどの啓発普及事業の担い手

- 厚生労働省
- 文部科学省
- 都道府県
- 市区町村

■自治体

■学生

- 早稲田大学公認イベント企画サークル qoon
- wAds (World AIDS Day Series) などなど

■企業 / (CSR)

- TBSラジオ
- オカモト
- Yahoo! JAPAN
- リーバイ・ストラウスジャパン
- BODY SHOP
- サンスター
- アリコ ●ロシュ
- TOKYO FM
- エフエム大阪 などなど

■企業 (エンタテインメント)

■NGO

- ふれいす東京
- JaNP+
- HIVと人権・情報センター
- アカー (動くゲイとレズビアンの方)
- rainbow ring
- MASH大阪
- はばたき福祉事業団
- りょうちゃんず
- シェア=国際保健協力市民の会 などなど

■エイズ予防財団

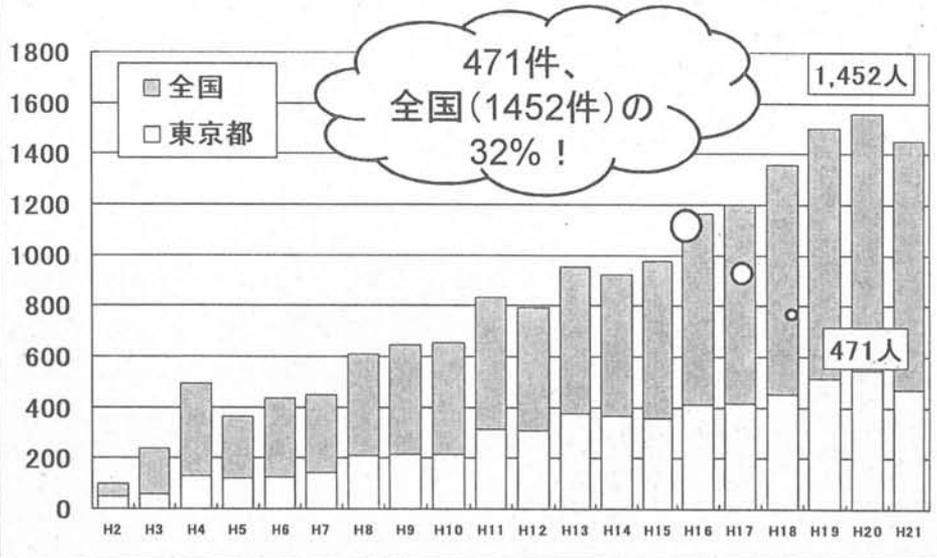


HIV検査の充実に向けた取組

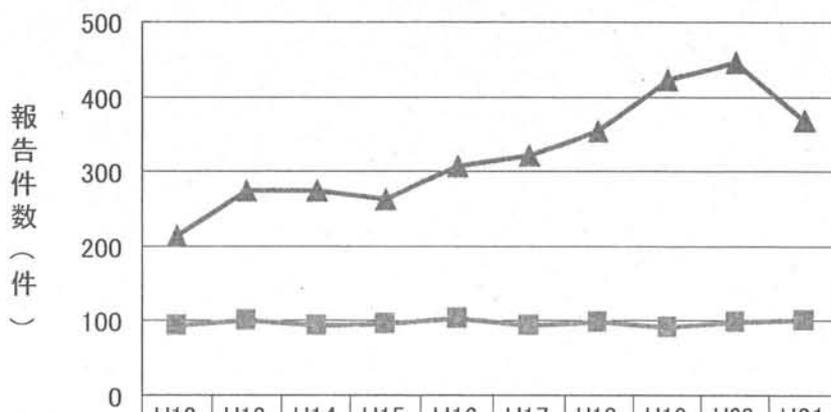
～東京都～

東京都福祉保健局健康安全部
エイズ・新興感染症担当課長
堂 蘭 桂子

HIV/AIDS新規感染報告数の推移

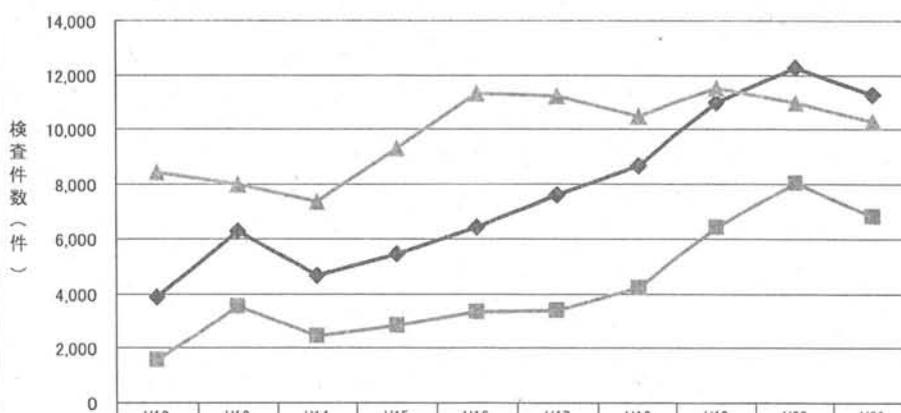


新規感染報告数の推移 (東京都 HIV・AIDS別)



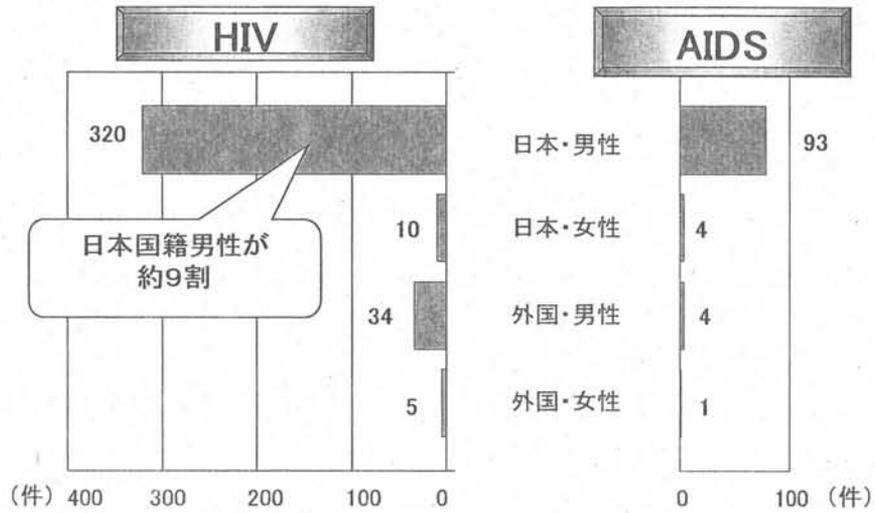
	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
■ AIDS患者	94	102	93	97	103	95	99	92	98	102
▲ HIV感染者	214	274	275	262	308	322	354	423	447	369

都内保健所等における検査件数の推移

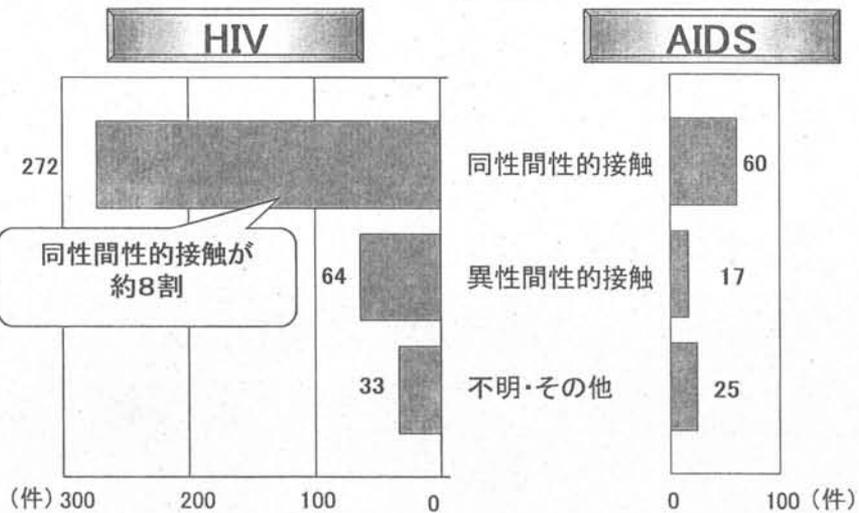


	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
合計	13,891	17,808	14,492	17,634	21,068	22,221	23,457	28,936	31,345	28,436
◆ 区保健所	3,884	6,298	4,679	5,466	6,415	7,594	8,710	10,979	12,293	11,297
▲ 都保健所	1,548	3,526	2,445	2,850	3,327	3,393	4,222	6,427	8,046	6,839
○ 南新宿	8,459	7,984	7,368	9,318	11,326	11,234	10,525	11,530	11,006	10,300

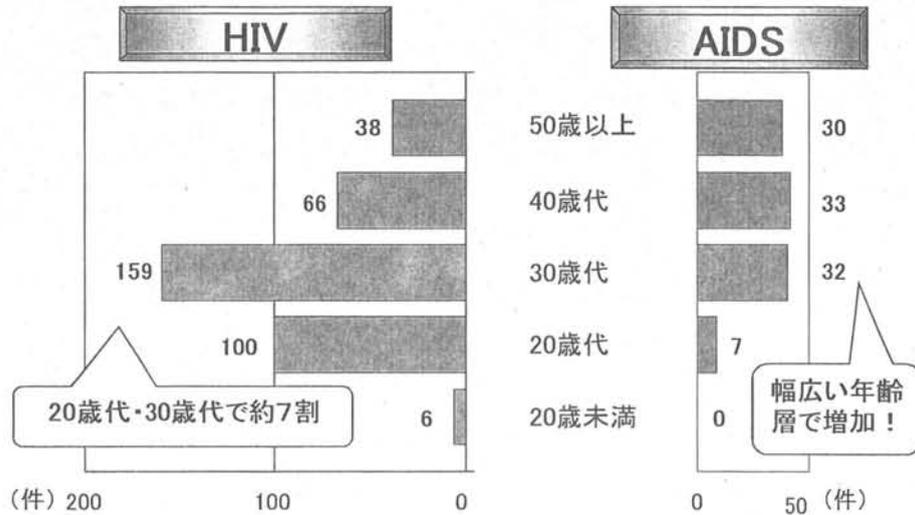
東京の国籍別・性別 HIV感染者・AIDS患者報告数(H21年)



東京の推定感染経路別 HIV感染者・AIDS患者報告数(H21年)



東京の年齢別
HIV感染者・AIDS患者報告数(H21年)



東京都におけるエイズ対策の取組

- 1 普及・啓発活動の強化
- 2 相談・検査体制の充実
- 3 医療体制の整備
- 4 療養支援体制の整備
- 5 調査研究

「エイズ対策の新たな展開」の策定(H21年5月)

【 4つの柱 】

- **目標1**
エイズ及びHIV感染に対する理解の促進
- **目標2**
感染拡大の防止
- **目標3**
HIV陽性者の支援
- **目標を実現するための基盤づくり**

今後、拡充する取組の主なもの

～若者層に向けた施策に加えて、新たに働き盛り世代等を対象とした施策を展開～

- **職域への啓発や働き盛りの世代に向けた取組の強化**
- **受検者の受けやすい検査体制の充実**
- **HIV陽性者への支援**

HIV検査

● 区・市・都保健所

(性感染症検査も可)

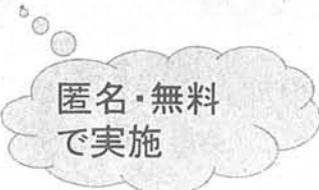
● 東京都南新宿検査・相談室

(土日・平日夜間 通常検査)

● 東京都多摩地域検査・相談室

(毎週土曜 即日検査)

※東京都HIV検査情報web、南新宿独自HP



匿名・無料
で実施

南新宿検査・相談室

● 新宿駅南口徒歩3分

● 平日夜間、土日に検査



月～金曜日 15:30～19:30

土・日曜日 13:00～16:30

匿名・無料

要予約 03-3377-0811

南新宿検査・相談室

広報の強化＋受検者の利便性向上

【平成22年6月15日から】

独自のホームページ(PC版)開設

【平成22年7月1日から】

携帯サイトからの予約開始

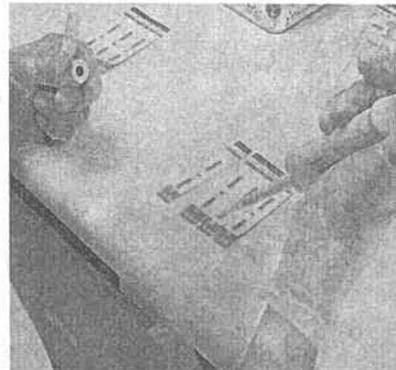
(7月15日以降の検査予約を可能に)

多摩地域検査・相談室 土曜日に即日(迅速)検査

平成17年度 月1回
平成18年度 月2回
平成19年度 毎週
平成21年度 検査体制拡充

受検者は増加してきたが

平成18年度 1,218件
平成19年度 2,537件
平成20年度 3,194件
平成21年度 2,318件



多摩地域検査・相談室

【平成21年6月から】

検査体制の拡充

⇒予約枠の導入と検査枠の拡充

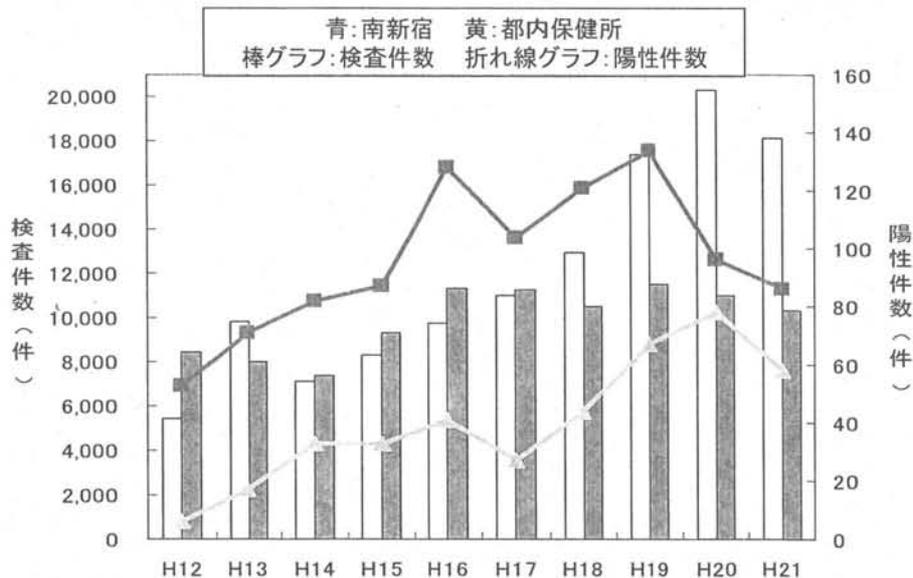
予約制: 受付10:00、検査枠10名

先着順: 受付12:00～15:00、検査枠70名

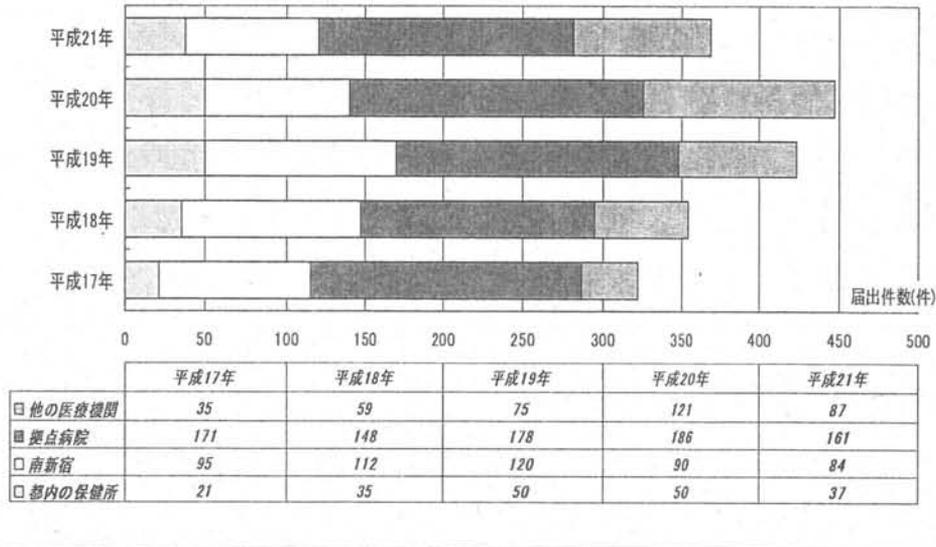


今後も周知の強化が必要

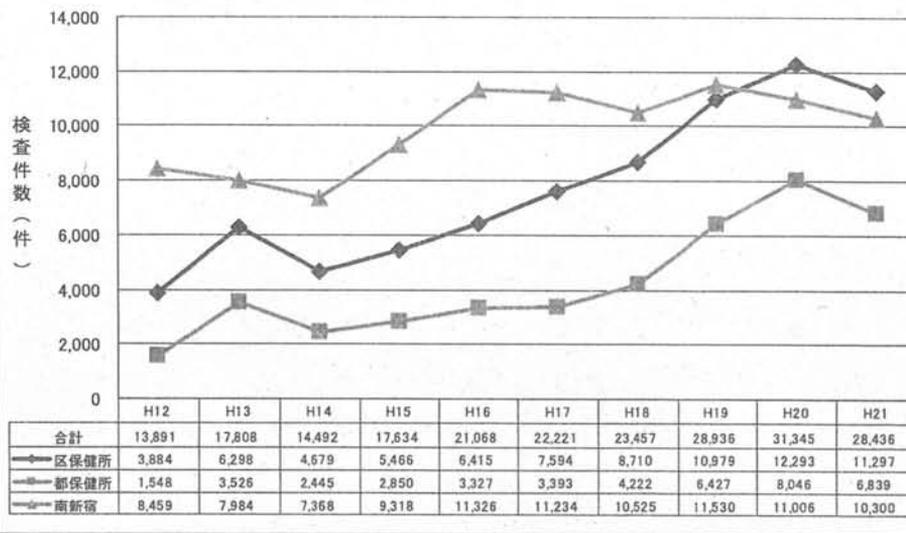
東京都の検査件数と陽性件数



東京都HIV感染者の 医療機関別報告数 年次推移



都内保健所等における検査件数の推移



東京都HIV検査情報web

東京都HIV検査情報Web



臨時検査分と
常設検査分を掲載
平成22年6月から
通年開設

東京都HIV検査情報Web

トップページ 臨時検査 エイズQ&A リンク プライバシーポリシー

通常検査

多摩地域検査・相談室



多摩地域検査 相談室	
多摩立川保健所	
10:00~12:00 (受付時間: 10:50)	12:00~17:00 (受付時間: 12:00~13:00)
○	×
予約診療時間 030-2527-8647 (月~金 10:00~16:00) 検査に際する予約 030-2527-2506 (9:30~17:00) 立川市保健所 21-18	030-2537-2906 (9:30~17:00) 立川市保健所 21-18
24時間・夜間・土曜・休日急病 24時間 検査センター(無料) 立川保健 24時間	
検査の種類 性病 × ○ ×	

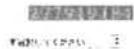
東京都HIV検査情報web

MSM向けサイトのバナー広告とリンク→検査情報を提供

男子のための総合コミュニケーションスペース

Men's Net Japan

since Dec 3, 1996



東京都HIV検査情報Web

臨時検査 通常検査 エイズQ&A リンク プライバシーポリシー

11月17日 東京都HIV検査情報Web



東京都南新宿検査・相談室ホームページ
<http://www.tmsks.jp/> → 携帯予約



東京都エイズ予防月間(平成4年度創設)

11月16日
 ~12月15日
 予防啓発、
 保健所等における
 通年実施の検査に
 加えて臨時検査、
 シンポジウム、
 ライトアップ等
 を実施。



HIV検査・相談月間(平成19年度創設)

6月の1ヶ月間。
保健所等における
通年実施の検査に
加えて臨時検査、
講演会・展示等
を実施。

※ 国はHIV検査
普及週間を実施
(6月1日~7日)

東京都 HIV検査・相談月間 2007年6月1日 ~ 6月30日

ONE-ACTION.
コンドームの正しい使用で、
新たなHIV感染を防ぐことができます。
また、早く検査を受けることで、
エイズの発症を防ぐことができます。
あなたの「口とつゆ」を毎日「つ」が、
自分と大切な人たちの健康につながります。

NEXT-ACTION.
不安なときは
検査と相談を。

保健所で
匿名
無料

エイズ・性感染症の検査や相談は、匿名・無料で、保健所で受けられます。

東京都HIV検査ガイド など

繁華街に集まる
MSM向け検査
情報リーフレット
を配付して受検
を促す

東京都 HIV検査ガイド
TOKYO HIV TEST GUIDE

東京都エイズセンターのご案内
03-3292-9090
TEL: 03-3292-9090
FAX: 03-3292-9091

東京都健康増進センター
0120-177-812
TEL: 0120-177-812
FAX: 0120-177-813

HIVマップ
http://www.hiv-map.jp/

繁華街(新宿等)における NPOと連携した予防啓発

- バナー・雑誌広告
- 予防啓発グッズ作成・アウトリーチ
- Living Together Lounge (ライブと陽性者手記リーディング)



広報(ホームページ/リーフレット等)

東京都福祉保健局

English | サイトマップ

東京都福祉保健局の最新情報

最新情報

感染症対策

エイズについて

最新情報 11月15日更新

東京都福祉保健局がリニューアルオープンしました(11月15日)

11月15日～12月15日は東京都エイズ予防月間です(11月26日)

11ピックス

11年成り年間の取り組み

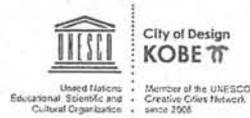
ニュースレターの発行

- 四半期報告
- 年報
- エイズに関心を持ってもらうため、迅速に情報を届けることが大切
 - インターネットの配信
 - 関係者が健康教育に活用

東京都エイズ通信(メルマガ)の発行

**ご清聴
ありがとうございました**

神戸市におけるエイズ対策の 取り組みについて



神戸市保健福祉局健康部(保健所)予防衛生課
森 喜平

神戸市とエイズのかかわり

時期	内容
昭和62年1月	神戸エイズパニック わが国で初めての日本人女性エイズ患者が神戸で報告 (全国にさきがけ) HIV抗体検査を匿名・無料で開始
平成17年7月	第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議を神戸 で開催 70カ国4,500人参加
平成17年12月	エイズボランティア団体の活動支援組織「エイズ予防サ ポートネット神戸」設立
平成18年7月	エイズ患者、HIV陽性者の治療、支援を目的に、県内の病 院連携、医療従事者・在宅ケア支援者等のネットワークと して「神戸エイズネットワーク連絡会」を発足

神戸市のHIV検査

1. 夜間HIV検査(予約不要)平成16年～
 【検査日】 毎週水曜日(祝日も実施) 18:00～20:00受付
 【検査内容】 HIV(エイズ)、梅毒(定性)、クラミジア
 【場所】 三宮センタープラザ西館(中央区)

2. HIV即日検査(要予約)平成18年～
 【検査日】 月1回指定の土曜日(5月、7月、12月は2回)
 13:00～14:00受付
 【検査内容】 HIV(エイズ)
 【場所】 三宮センタープラザ西館(中央区)

3. 各区役所検査(予約不要)昭和62年～
 【検査日】 月1～2回指定の平日時間内
 【検査内容】 HIV(エイズ)、梅毒、B型肝炎、C型肝炎
 【場所】 各区役所

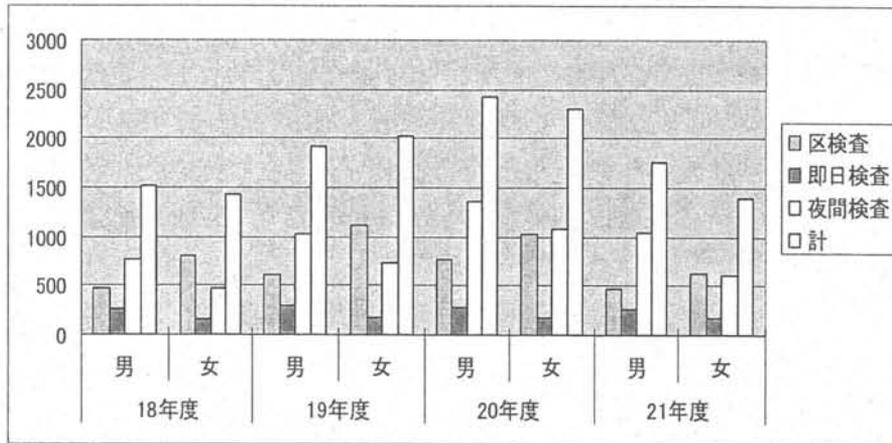
神戸市のHIV検査結果

上段:検査件数、下段:陽性件数

	18年度	19年度	20年度	21年度
各区	1,264	1,724	1,807	1,102
	4	2	3	3
即日	425	462	467	421
	2	2	1	0
夜間	1,244	1,759	2,435	1,649
	1	7	3	4
計	4	11	7	7
	2,933	3,945	4,709	3,172

* 陽性者は、21年度の区の検査で1名女性があったほかはすべて男性

HIV男女別検査件数



神戸市のHIV・エイズ発生届

	17年	18年	19年	20年	21年
AIDS患者	3	12	3	6	4
HIV陽性者	10	14	13	18	15
計	13	26	16	24	19

※昭和61年～累計では、AIDS患者56件、HIV陽性者119件
計175件(うち女性15件、外国籍12件)

神戸市におけるHIV検査の課題

1. 匿名検査の課題
 - ・匿名のため、陽性告知後の支援が難しい。
 - ・即日検査以外の結果説明は翌週になるが、陽性判定で結果を受け取りに来ない場合が想定される。
2. 即日検査の課題
 - ・判定保留(疑陽性)の場合、翌週の結果判明まで不安な状態が続く。
3. その他
 - ・即日検査以外は予約不要のため、検査希望者が多い場合に十分カウンセリングができない。
 - ・ハイリスク(男性同性愛者等)への検査につながっていない。
 - ・陰性結果に安心し、カウンセリングをしても予防行動につながらない。

神戸市のエイズ予防啓発活動

1. 市立中学生を対象としたデリバリ授業
 - 3年生を対象に行政医師による性教育
 - エイズとSTI予防啓発冊子「知っとこホンマのこと」の活用
 - (他に、私立中学、高校、大学等でも依頼を受けて実施)
2. 神戸ICCAP記念エイズ予防月間
 - アジア・太平洋地域エイズ国際会議を記念して毎年7月に各種啓発イベントを開催
3. 世界エイズデー予防啓発
4. エイズ予防サポートネット神戸による活動支援

知るところ、ホンマのこころ



性感染症とエイズ
(STD・STI) (HIV/AIDS)



中高生等学生向け

男性同性愛者向け

知つとこ、ホンマのこころ
For Gay Friends

✂ エイズは、本当に防ぎにくい病気です



HIVにならなかつたら、いま、どうなっていたか
そして、HIV(+に)なっていると感じている
日頃の生活とそんなに変わらないんですよ。
ただ、ちょっとHIV(+に)だけ

神戸市保健所
BASE KOBE

エイズ予防サポートネット神戸

1. 設立趣旨

- ・ 平成17年7月「第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議」を神戸で開催。
- ・ 会議の中で、エイズ対策には、NGO等のボランティア活動の果たす役割が大きく、行政とNGOとのパートナーシップが重要と指摘。
- ・ ボランティア活動を支援するために「エイズ予防サポートネット神戸」を平成18年12月に設立。

2. 活動内容

- ・ ボランティア活動に対する支援(助成金の交付)
- ・ エイズ及び性感染症予防啓発に関する情報の収集・発信

3. 組織

- ・ 事務局は神戸市保健所予防衛生課
- ・ 運営委員会(医師会、歯科医師会、薬剤師会、商工会議所、神戸新聞社等)と幹事会(市課長級等)で構成

エイズ予防サポートネット神戸の活動支援状況

内容	18年度	19年度	20年度	21年度
イベント	6	3	5	2
研修・啓発	5	6	7	3
相談	2	2	1	2
計	13	11	13	7

イベント: 大学祭、コンサート等

研修・啓発: ピアカウンセリング、勉強会、研修会等

相談: 電話相談、メール相談等

注) 平成21年度の件数が少ないのは新型インフルエンザの影響のため

エイズ予防サポートネット神戸の課題

- ・活動の広がり難しさ
ボランティア団体の活動の継続性、拡大が難しい。
- ・市民参加の難しさ
エイズに対する関心が低い。
- ・財源確保の難しさ
本会は、会員の会費を財源としているが、会員の確保が難しい。
(平成22年度会員10団体、会費収入31万円)
神戸市から100万円の補助金







KOBE
エイズフェスタ
2010

世の中 すべて 巡り巡り
 います。自分に関係ない
 ことはありません。
 まずは 同心を持つこと。
 いつか そのことが 人の為
 に 役に立つことにつながるとは
 ないでしょうか。エイズに 同心と
 持つこと。それと同様です。



知ることが
 理解への第一歩です



●年齢(40)歳代 ●性別(男性・女性)

KOBE
エイズフェスタ
2010



知ることが理解への第一歩です

●年齢 (50) 歳代 ●性別 (男性・女性)

KOBE
エイズフェスタ
2010



知ることが
理解への第一歩です

家族・恋人・友人
誰がこの病気になっても
私にとっては変わらず大切な人!
私がなったとしても
そう思ってもらいたい!



●年齢 (20) 歳代 ●性別 (男性・女性)

世界エイズデー記念シンポジウム(予定)

1. 平成22年11月23日(土)

HIV陽性者就労支援シンポジウム
職場とエイズ 仕事も生活も続けよう

2. 平成22年12月5日(土)

HIVと人権シンポジウム
エイズ教育



ご清聴を感謝します。
(市役所花時計をレッドリボンで)

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会

H I V 検査体制に関する調査票

目 次

1	埼玉県	1
2	千葉県	2
3	東京都	3
4	神奈川県	4
5	愛知県	5
6	大阪府	6
7	兵庫県	7
8	沖縄県	8
9	さいたま市	9
10	千葉市	10
11	横浜市	11
12	川崎市	12
13	相模原市	13
14	名古屋市	14
15	大阪市	15
16	堺市	16
17	神戸市	17

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会
H I V検査体制に関する調査票

自治体名 埼玉県

1 最近（平成20年1月～平成22年6月）の検査件数の推移について所見を記載してください。

平成18年度から保健所による迅速検査を導入し、保健所の日程を利便性を高めるよう調整し、平成19年度から検査件数が増加した。しかし、平成21年2月をピークに、検査件数は減少傾向が続いている。

ただし、平成20年度と平成21年度の比較では、即日検査とそれ以外の検査では、減少幅が即日以外で（-31.4%）に対し、即日検査では（-24.3%）となっており、受検者の負担が軽い即日検査は、社会的関心の低下など検査件数減少要因の影響を受けにくいことが分かった。

このようなことから、受検者の負担の少ない検査を積極的に実施することが、検査件数の増加に必要であると考えられる。

<参考>

平成21年度 3, 272件（うち即日検査1, 565件）

平成20年度 4, 577件（うち即日検査2, 067件）

2 上記1の所見を踏まえ、H I V検査の推進に当たって実施し、又は実施に向けて検討している取組（検査体制の充実のほか、普及啓発等のエイズ対策事業を含む。）があれば、記載してください。また、その取組の成果や課題等についても記載してください。

本県では、保健所職員による即日検査・休日検査を積極的に実施しているほか、今年度は、エイズ予防財団の検査・相談事業を活用するなどし、積極的に検査の機会を提供する予定である。

また、普及啓発活動については、個別施策層である男性同性愛者に対する普及啓発活動を行う予定である。特に、今年度は、男性同性愛者に対するアウトリーチと検査を結びつける新たな内容とする予定である（アウトリーチイベント後、参加者に対して受検を促す。）。

このように、検査件数増に対する取組みの他、普及啓発活動については、より対象を明確化すると共に、積極的に検査を促すことで、リスクの高い層に対するアプローチを行う。

今後は、より利便性の高い検査を実施すべく、検査（採血及び問診）の委託化に向け、引き続き予算要求を行っていく予定である。

3 検査件数の増加等、H I V検査体制を充実させるに当たっての現実的な問題点などがあれば、記載してください。

① 財源圧縮

昨今の財源圧縮に伴い、限られた要員の中での検査業務及び予算削減により普及啓発活動が大変厳しい状況となっている。

② 本県は、県民の多くが他自治体に通勤・通学しているため、本県と他都県との検査・治療に関する連携（特に医療機関における連携）が必要である。

4 エイズ対策全般における課題や効果的な取組などがあれば、記載してください。

【課題】

エイズ・H I V感染症治療に関する診療の情報把握及び連携の推進について、現在全県的な調査を実施している。今後は、この調査結果を行政がどのように患者・医療機関のために活用できるかを検討する必要がある。

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会
H I V検査体制に関する調査票

自治体名 千葉県

1 最近（平成20年1月～平成22年6月）の検査件数の推移について所見を記載してください。

千葉県分（保健所設置市を除く）の検査件数は、平成19年5,290件から平成20年4,308と減少したが、これは平成20年度に柏市が中核市となったためである（柏市は759件で加算すると5067件となる。）。
平成21年6月以降新型インフルエンザの発生に伴い、各保健所が対応に追われ、数箇所の保健所では、検査の中止や縮小することとなったため、受検者数が減少した。
千葉県では、平成19年から休日街頭検査を開始したことにより、休日検査においては、受検者が増えている。また、陽性者の発見率も、平日検査では、0.1～0.2%であるが、休日検査では、1.2%と高率であり、休日検査が有効な結果を示している。

2 上記1の所見を踏まえ、H I V検査の推進に当たって実施し、又は実施に向けて検討している取組（検査体制の充実のほか、普及啓発等のエイズ対策事業を含む。）があれば、記載してください。また、その取組の成果や課題等についても記載してください。

更に、休日検査の充実を図るために、より利便性の高い場所と魅力ある検査内容ということで、希望者には、B型肝炎と梅毒検査を受けられる体制を整えた。
その結果、受検者が激増し、梅毒陽性者が多く発見することができ、医療につなげることができた。
検査体制については、タイムリーに柔軟に対応していく体制確保が重要と考えている。

3 検査件数の増加等、H I V検査体制を充実させるに当たっての現実的な問題点などがあれば、記載してください。

検査件数を増加させるためには、利便性の良い検査場所で、休日検査の実施日数を増やし、他の検査項目も導入することが良いと思われるが、どれも経費が増大してしまう。

4 エイズ対策全般における課題や効果的な取組などがあれば、記載してください。

同性愛者啓発対策の中で、人材の発掘・活用が課題である。

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会
H I V 検査体制に関する調査票

自治体名 東京都

1 最近（平成20年1月～平成22年6月）の検査件数の推移について所見を記載してください。

平成20年度は検査件数は高い水準にあったが、平成21年5月ごろから、都内全域において検査件数が減少した。これについては、新型インフルエンザの発生を受けて、世間の関心が新型インフルエンザに集中したことによるものと推察している。しかし、新型インフルエンザの影響が一段落したと考えられる平成22年以降も、新型インフルエンザ発生前の水準に回復しない状況である。

検査件数の減少と同時にHIV感染の報告数が減少している一方で、AIDS患者の報告数に減少が見られないため、「AIDS発症によりHIV感染がはじめて発覚」するケースの増加に繋がることが懸念される状況である。

2 上記1の所見を踏まえ、H I V検査の推進に当たって実施し、又は実施に向けて検討している取組（検査体制の充実のほか、普及啓発等のエイズ対策事業を含む。）があれば、記載してください。また、その取組の成果や課題等についても記載してください。

HIV検査件数を増加させるためには、検査の利便性向上と検査情報提供の強化が欠かせない。

このため都では、平日夜間・土日曜に検査を実施している検査機関（南新宿検査・相談室）について、ホームページを新規に開設し、携帯電話予約システムを稼働させた（平成22年9月現在、一部の検査時間枠について運用中。今後、運用状況に応じて予約枠を拡大する予定）ところ、利用者から好評を得ている。

MSMに対する検査情報提供を目的に、MSM向けインターネットサイトにバナー広告を掲載してきたが、平成22年度から、期間を拡大して通年掲載している（H21年度はキャンペーン月間のみ）。

また、検査件数の減少幅が大きい地域に対しては、当該地域の大学・企業等の既設ネットワークを活用した情報提供を検討している。

さらなる取組内容を検討するにあたり、実施済みの取組の効果検証に苦慮している。

3 検査件数の増加等、H I V検査体制を充実させるに当たっての現実的な問題点などがあれば、記載してください。

HIV／エイズに関する一般の関心が低下しており、患者・感染者の増加傾向が現在も続いていることが、情報として都民に届いていない。このため、HIV検査の認知度が上がらない状況がある。

また、検査体制の充実には経費を要するが、予算上の制約がある。

4 エイズ対策全般における課題や効果的な取組などがあれば、記載してください。

○検査・相談体制の充実

より利便性を高めた検査実施体制の確保が必要である。

○普及啓発

必要に応じて国や自治体が連携して広域的な広報を行うことができれば、効果的と思われる。

○医療体制の整備

HIV陽性者の社会生活を支える医療体制を整備する必要がある。

特に、HIV診療の困難性に見合った診療報酬の設定がなされていないことが課題である。

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会
H I V検査体制に関する調査票

自治体名 神奈川県

1 最近（平成20年1月～平成22年6月）の検査件数の推移について所見を記載してください。

○近隣自治体での検査日程の増減が当県所管域での検査件数に影響を与えるため、検査件数の増減については特に問題視はしていない。ただ、一時期に比べるとHIV検査に対する関心が薄れているように思う。
○検査に関しては、単に検査件数を増やすことではなく、検査が必要な対象をいかに検査につなげ、発見した感染者を確実に医療機関につなげることが大切であると考えている。

2 上記1の所見を踏まえ、H I V検査の推進に当たって実施し、又は実施に向けて検討している取組（検査体制の充実のほか、普及啓発等のエイズ対策事業を含む。）があれば、記載してください。また、その取組の成果や課題等についても記載してください。

○HIV検査機会のPRとして、休日検査にSTI即日検査（梅毒・B型肝炎）の機会を提供。受検者の増加にはなるが、年2回のイベントとしての開催であり、継続した検査件数の増加につなげることは難しい。
○MSMや外国籍者が受検しやすいよう、従事者の研修や通訳の配置をしたり、その他、検査方法や予約の要否、時間帯・曜日などの対象の様々な要望に応じられるよう検査体制の充実を図っているが、その分、受検者が分散し、1機関あたりの受検者数に差が生じている。

3 検査件数の増加等、H I V検査体制を充実させるに当たっての現実的な問題点などがあれば、記載してください。

○従事可能な人員が限られている。委託して行うにしても受託可能な機関が限られるため、限られた予算で契約するためには要件を落とさざるを得ない。
○受検しやすい場所・環境・設備のある検査場所の確保が、予算や貸借の面から難しい。
○全保健所で実施するが、受検者数は保健所間でも大きな差がある。その中で、全保健所の検査体制を同様に整備し充実させることは、予算的にも厳しい。
○テレビCMなど、マスコミを利用したPRの機会が減っている。

4 エイズ対策全般における課題や効果的な取組などがあれば、記載してください。

○個別施策層であるMSMについて、啓発・カウンセリング・検査等を行う拠点としてNPOとの協働事業で「かながわレインボーセンターSHIP」を開設して4年目となり、一定の実績も上がってきていると考えているが、運営経営の負担が大きく、事業の継続が難しい状況にある。

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会
H I V検査体制に関する調査票

自治体名 愛知県

1 最近（平成20年1月～平成22年6月）の検査件数の推移について所見を記載してください。

平成20年12月をピークに検査件数は減少傾向にあるが、検査体制等については平成20年1月から変わっていない。しかし、保健所の検査で発見される陽性件数については、減っておらず、本年はむしろ増えている。

2 上記1の所見を踏まえ、H I V検査の推進に当たって実施し、又は実施に向けて検討している取組（検査体制の充実のほか、普及啓発等のエイズ対策事業を含む。）があれば、記載してください。また、その取組の成果や課題等についても記載してください。

エイズキャンペーンと題して、エイズの予防啓発を12月1日の世界エイズデー付近で毎年行っているが、今年度は昨年度までと場所を変え、より若者が集まる地下街で行う予定としている。

3 検査件数の増加等、H I V検査体制を充実させるに当たっての現実的な問題点などがあれば、記載してください。

予算・人員の確保が困難であり、夜間休日検査を行うのが難しい。

4 エイズ対策全般における課題や効果的な取組などがあれば、記載してください。

- ・特定の病院に患者等が集中している実態があり、これを改善することが課題となっている。現状では、名ばかり拠点病院が多く、積極的に患者を受け入れる姿勢がみられない。
- ・外国人への予防啓発等対策が課題である。

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会
H I V検査体制に関する調査票

自治体名 大阪府

1 最近（平成20年1月～平成22年6月）の検査件数の推移について所見を記載してください。

平成20年9月をピークに、新型インフルエンザの影響で受検意識が逡減したことから検査件数が減少したと推察される。

新型インフルエンザが終息後の要因としては、検査啓発活動が一般的に浸透しなかったこと、依然受検意識が回復していないことなどがあげられる。

2 上記1の所見を踏まえ、H I V検査の推進に当たって実施し、又は実施に向けて検討している取組（検査体制の充実のほか、普及啓発等のエイズ対策事業を含む。）があれば、記載してください。また、その取組の成果や課題等についても記載してください。

検査件数は減少傾向であるにもかかわらず、H I V陽性者数が増加しており、正しい知識の普及啓発とともに、受検者数を伸ばすような検査体制の充実が必要である。

大阪府においては、保健所での無料検査とは別に、受検者にとって来所しやすい場所及び時間帯で平日夜間及び休日の検査・相談業務をNPO法人等に委託しているところであるが、フロア一代（賃借料）の新たな負担がネックとなっており、委託業務の継続実施が困難な状況。

また、通常検査に代えて即日検査を順次導入したいと考えており、国支援策の充実を求めたい。

3 検査件数の増加等、H I V検査体制を充実させるに当たっての現実的な問題点などがあれば、記載してください。

地方財政状況は極度に逼迫しており、必要最小限度の予算を確保することも困難な場合が多い。

加えて、人員の配置も十分でない。

新規H I V感染者・エイズ患者数が多い、重点都道府県等選定団体には、国の特段の支援をお願いする。

4 エイズ対策全般における課題や効果的な取組などがあれば、記載してください。

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会
H I V検査体制に関する調査票

自治体名 兵庫県

1 最近（平成20年1月～平成22年6月）の検査件数の推移について所見を記載してください。

平成20年の兵庫県下のH I V検査件数は月平均で約370件であったが、平成21年は月平均で294件となり、件数は20%落ち込んだ。平成22年は月平均で216件であり、平成20年より42%減、平成21年より27%減となっており、件数は回復していない。

新型インフルエンザについては、県保健所で検査の中止や制限はなく、通常どおり行っていたが、兵庫県は新型インフルエンザの初発患者が確認された県でもあり、県民が保健所へ足を運ぶのを自粛していた可能性は否定できない。

ただし、県全体では件数は減少傾向であるが、保健所毎に比較すると、平成21年でも件数の増加しているところがある。もともと受検希望者の多い地域では、予約枠の拡大や臨時の休日H I V検査の実施など、利便性を高めることで件数の増加は見込めると考える。

2 上記1の所見を踏まえ、H I V検査の推進に当たって実施し、又は実施に向けて検討している取組（検査体制の充実のほか、普及啓発等のエイズ対策事業を含む。）があれば、記載してください。また、その取組の成果や課題等についても記載してください。

今年度は、個別施策層への啓発として、MSMへの啓発を重点的に行うため、県でNPO団体等を講師に迎え、普及啓発研修会の実施を計画している。

今後は、MSMの受けやすい検査環境の研修等を行うなど、H I V検査の推進に取り組む予定である。

3 検査件数の増加等、H I V検査体制を充実させるに当たっての現実的な問題点などがあれば、記載してください。

13か所ある県保健所では、予約制の迅速検査を行っているが、プライバシーに配慮した検査や検査前後の充実した相談体制をとるには受検者1人あたりの時間がかかるため、予約枠を容易に拡大することが出来ず、人員面で難しい。

4 エイズ対策全般における課題や効果的な取組などがあれば、記載してください。

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会
H I V検査体制に関する調査票

自治体名 沖縄県

1 最近（平成20年1月～平成22年6月）の検査件数の推移について所見を記載してください。

平成20年12月の353件をピークに、平成20年は月平均292件の検査件数であったが、平成21年は新型インフルエンザが発生したことに伴い検査を休止したため、検査件数は月平均226件まで減少した。その後も検査件数は減少傾向にあり、平成22年1月～6月の実績は、前年（新型インフルエンザ発生前）と比較しても少なく（287件減）、県民の検査離れが懸念される。

2 上記1の所見を踏まえ、H I V検査の推進に当たって実施し、又は実施に向けて検討している取組（検査体制の充実のほか、普及啓発等のエイズ対策事業を含む。）があれば、記載してください。また、その取組の成果や課題等についても記載してください。

平成19年度より検査体制を強化するため、県内2つの保健所で夜間・即日検査を開始し、更に平成21年度1カ所追加し、3つの保健所で実施している。

しかし、新型インフルエンザの発生に伴い、検査を休止または一部休止したため、夜間検査を強化したにもかかわらず、平成21年の年間の検査件数は前年に比べ減少している。

そこで本年度は、各保健所の検査日程等を記載した「検査カード」を作成し、性感染症の治療を行っている医療機関等に配布することにより、保健所での検査実施状況を広報し、検査件数減少に歯止めをかけたい。

3 検査件数の増加等、H I V検査体制を充実させるに当たっての現実的な問題点などがあれば、記載してください。

夜間・即日検査を開始した平成19年度には、3人の陽性者、平成20年度には2人の陽性者が夜間検査でみつかри、検査件数に占める陽性者数が高く、感染している可能性の高い方が夜間検査を受けている状況にあったが、平成21年度は夜間検査で陽性者がみつからず、また検査件数も大きく増えていない【H19→120件（2保健所） H20→76件（2保健所） H21→170（3保健所）】。

今後どのように夜間検査を継続していくことが効果的か（時間、回数、場所）を含め検討する必要がある。

4 エイズ対策全般における課題や効果的な取組などがあれば、記載してください。

本県におけるH I V感染者、エイズ患者の多くは男性で、またそのほとんどが同性間での性的接触により感染している状況にある。

感染拡大を防ぐために、個別施策層にどうアプローチし、対策を行っていくかが今後の課題である。

また、厳しい予算の中、予算がほぼ無料検査で占められ、広報のための予算を十分に確保できない状況にあり、予算をかけず効果的な広報活動を行うことが求められている。

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会
H I V検査体制に関する調査票

自治体名 さいたま市

1 最近（平成20年1月～平成22年6月）の検査件数の推移について所見を記載してください。

当市では、平成20年5月より、保健所での通常検査に加え、委託による休日・即日検査を実施している。HIV検査件数を、平成20年度と平成21年度とで比較した場合、保健所での通常検査件数が大幅に減少し、委託による休日・即日検査が増加したものの、これらを併せた検査総数が減少した。保健所での検査件数が減少した要因としては、第一に、平成21年の5-6月は、新型インフルエンザ対策の一環として、検査受付件数を制限したこと、第二に、7月以降、予約枠を従来と同数としたものの、回復しなかったことが挙げられる。12月の世界エイズデーに関する啓発活動の一環として、保健所での休日検査を実施したが、この際の受検者数も、前年に及ばなかった。平成22年に入ってから、保健所での検査件数は、前年同月に比べて少ない状態が続いている。保健所での検査体制の見直し等対応を検討中である。

2 上記1の所見を踏まえ、H I V検査の推進に当たって実施し、又は実施に向けて検討している取組（検査体制の充実のほか、普及啓発等のエイズ対策事業を含む。）があれば、記載してください。また、その取組の成果や課題等についても記載してください。

保健所での通常検査受検者数の減少の要因を検討するために、平成22年1月以降、受検者を対象に、検査の曜日や実施時間帯に関するニーズ調査を実施している。その結果を踏まえ、6月の検査普及週間において、平日夜間の検査時間を通常よりも1時間30分繰り下げ、7時開始8時受付終了とした。同様の措置は、12月の世界エイズデーにおける検査でも実施を予定している。ニーズ調査を継続的に実施し、来年度以降の保健所での検査体制を検討する予定である。

3 検査件数の増加等、H I V検査体制を充実させるに当たっての現実的な問題点などがあれば、記載してください。

先述のニーズ調査では、休日・即日検査への要望が高いことが確認されている。これに対しては、現在、委託で実施している同検査が、すでに定数を超過して受け付けているにもかかわらず、慢性的に予約オーバー状態が続いていることから、時間延長や回数増加が必要と思われる。しかしながら、その実現に向けては、予算面、人的確保などの物理面など、解決すべき課題である。

さらに、HIV検査の普及対象として、外国人への普及啓発の必要性が認識されているものの、言葉の壁の問題など、克服すべき課題が残されている。

4 エイズ対策全般における課題や効果的な取組などがあれば、記載してください。

大学生の協働による啓発活動や、本市のエイズ対策協議会における教育関係者とのディスカッションを通じて、義務教育の年齢層に対する正しい教育がエイズ対策の重要かつ効果的な手段のひとつと認識している。今後、これら外部との連携を図りながら、具体的な取り組み方法等検討していきたい。

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会
H I V検査体制に関する調査票

自治体名 千葉市

1 最近（平成20年1月～平成22年6月）の検査件数の推移について所見を記載してください。

平成20年、平成21年ともに検査件数の月平均は約67件であり、新型インフルエンザの流行により、平成21年7月から平成22年3月までの間、受付時間を短縮したことと関連し件数の減少傾向がみられ、平成22年の3月には月42件まで減少したが、4月以降、月平均66件と例年並みの検査件数と考えられることから、検査希望者そのものが減少したということは見受けられなかった。

2 上記1の所見を踏まえ、H I V検査の推進に当たって実施し、又は実施に向けて検討している取組（検査体制の充実のほか、普及啓発等のエイズ対策事業を含む。）があれば、記載してください。また、その取組の成果や課題等についても記載してください。

保健所でのH I V抗体検査の実施は、毎月通常検査昼間、通常検査夜間に加え、平成20年から昼間の即日検査を導入したほか、平成22年度からは世界エイズデーに伴い休日臨時街頭検査も予定している。各年の単純比較は難しいが、通常検査と比して即日検査の希望者が明らかに多く、即日検査の需要が多いことが伺われた。

3 検査件数の増加等、H I V検査体制を充実させるに当たっての現実的な問題点などがあれば、記載してください。

夜間の即日検査は需要は見込まれるが、確認検査に時間がかかることなど、判定された者へのフォローが難しいことから実施には難しい側面がある。

臨時街頭検査の会場選定にあたり、個室の相談室が複数確保できる会場や予算に見合った会場を、利便性の良い場所で確保し難い。

休日検査を含め検査実施日を増やすための、必要な人員及び事業予算の確保が困難である。

4 エイズ対策全般における課題や効果的な取組などがあれば、記載してください。

HIV感染症の予防は、本来ならば若年層への普及啓発が必要であると考えますが、中学校以下では性感染症等の話題を受け入れ難い実態があり、啓発に至っていない。

定期健康診断の項目として、希望者が受検できるような規定の整備と体制づくりが望まれる。

治療薬の進歩により、エイズが死に直結する病気ではないということは知られているが、服薬継続の難しさ等、正しく伝わっていないため、予防行動へつなげにくくなっているように感じられる。

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会
H I V検査体制に関する調査票

自治体名 横浜市

1 最近（平成20年1月～平成22年6月）の検査件数の推移について所見を記載してください。

平成20年12月ごろをピークに減少傾向が続いている。
世間全体の関心が薄れてきているためと思われる。
一方で、（因果関係がはっきりしているわけではないが）8月の発生動向の報道後に、検査数が急増するということがあったことからすると、潜在的なニーズは高く、きっかけがあれば受検者数は増えると考えられる。

2 上記1の所見を踏まえ、H I V検査の推進に当たって実施し、又は実施に向けて検討している取組（検査体制の充実のほか、普及啓発等のエイズ対策事業を含む。）があれば、記載してください。また、その取組の成果や課題等についても記載してください。

世間でH I Vへの関心が高くなり、検査数も増加する世界エイズデー付近に臨時検査を実施し、多くの人に検査を受けてもらった。
広報としては、市のホームページのほか、HIV検査・相談マップ、API-Net、エイズ予防戦略研究、NPO等の協力を得て、コストをかけずに効果的に広報することができた。

3 検査件数の増加等、H I V検査体制を充実させるに当たっての現実的な問題点などがあれば、記載してください。

枠を拡大することは、予算・人員の面から困難。（特に夜間・休日について）
現時点では、枠に余裕がある日がほとんどであるため、現体制を生かして検査数の増加させるためには、継続的なキャンペーン、広報、啓発等が必要と考える。

4 エイズ対策全般における課題や効果的な取組などがあれば、記載してください。

財政状況が大変厳しい。現状維持が難しくなっている。

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会
H I V検査体制に関する調査票

自治体名 川崎市

1 最近（平成20年1月～平成22年6月）の検査件数の推移について所見を記載してください。

平成21年6月から新型インフルエンザの影響で検査件数が減少し、平成21年秋以降さらに減少傾向となり、例年世界エイズデーの12月は大幅な件数増加が見られていたが、例年の半数程の件数であった。新型インフルエンザが終息後も検査件数の回復は見られず、市民のエイズに対する意識の低下が懸念される。

2 上記1の所見を踏まえ、H I V検査の推進に当たって実施し、又は実施に向けて検討している取組（検査体制の充実のほか、普及啓発等のエイズ対策事業を含む。）があれば、記載してください。また、その取組の成果や課題等についても記載してください。

受検者の利便性を考慮し、通常検査の1ヶ所を22年10月より即日検査に変更する。
エイズ対策上、検査件数を増やし、予防教育、早期発見・早期治療は大切ではあるが、これからの若い世代への予防教育が重要と考える（大人の行動変容には時間もかかり、子どもたちへの教育が効果的と考える。）。

3 検査件数の増加等、H I V検査体制を充実させるに当たっての現実的な問題点などがあれば、記載してください。

患者・感染者の報告数から考慮すると、男性同性愛者等に対する支援の充実が重要と考える。
男性同性愛者が安心して検査を受けられる場の設定、検査機会を増やすべきと考えるが、彼らへの働きかけ・介入の手立てが分からず、苦慮している。

4 エイズ対策全般における課題や効果的な取組などがあれば、記載してください。

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会
H I V 検査体制に関する調査票

自治体名 相模原市

1 最近（平成20年1月～平成22年6月）の検査件数の推移について所見を記載してください。

平成21年2月をピークに6月、9月、12月の迅速検査実施月には一時的に増加が見られるが、暫時減少となり、平成22年に入ってから、低レベルで推移している。

本市では、平成21年度において新型インフルエンザ対応による事業の縮小などは行わず通常どおりに事業を実施していたが、検査件数は減少した。理由としては、やはり新型インフルエンザの影響から、エイズに関する情報がマスコミ等に取り上げられる機会がなく、受検行動を促がす情報に触れる機会が減少したためではないかと推察される。

また、検査件数の減少については個別施策層、すなわち本当に検査が必要な層への検査PR、また、受検しやすい環境の整備が不足しているのではないかと考えられる。

2 上記1の所見を踏まえ、H I V検査の推進に当たって実施し、又は実施に向けて検討している取組（検査体制の充実のほか、普及啓発等のエイズ対策事業を含む。）があれば、記載してください。また、その取組の成果や課題等についても記載してください。

・主に若年層へのPRを目的に、検査会場や公共施設等で配布していた検査啓発用チラシを市内のコンビニエンスストア（セブンイレブン全店）へ設置した。（平成22年8月より実施）

・現在実施している啓発イベントを一般向けのものから各個別施策層に対してのものに移行していきたいと考えているが、行政が行う特定の対象者に対する事業の展開については、慎重な対応が必要と思われる。

3 検査件数の増加等、H I V検査体制を充実させるに当たっての現実的な問題点などがあれば、記載してください。

アクセスの良い会場の確保、夜間等利便性の高い時間での実施に伴う人件費（委託料）など予算の確保が困難。

4 エイズ対策全般における課題や効果的な取組などがあれば、記載してください。

特に受検を必要とする個別施策層（MSM、性風俗従事者）へのアプローチ手段について検討しているが、MSMなど対象が見えにくく、また特定の対象者に対する事業の展開は慎重な対応が求められる。

また、特にMSM層への受検しやすい環境整備としては、専門性の高いスタッフなどを配置した検査施設の設置等についても視野に入れる必要があると考える。

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会
H I V検査体制に関する調査票

自治体名 名古屋市

1 最近（平成20年1月～平成22年6月）の検査件数の推移について所見を記載してください。

保健所実施の昼間・夜間検査の検査件数をみると、平成19年度3,287件、20年度3,950件と増加傾向が継続してきたが、平成21年5月頃から減少に転じ、平成21年度は2,712件と平成20年度の70%弱に減少した。これには新型インフルエンザの流行拡大が少なからず影響しているものと推測される。なお、平成22年4月以降も減少傾向は継続している。

2 上記1の所見を踏まえ、H I V検査の推進に当たって実施し、又は実施に向けて検討している取組（検査体制の充実のほか、普及啓発等のエイズ対策事業を含む。）があれば、記載してください。また、その取組の成果や課題等についても記載してください。

上記1との直接の関連ではないが、平成21年度新規事業として実施予定であった土曜日即日検査（1保健所、毎月2回）を平成22年1月から開始し、1回あたり、50名程度の受検者数となっている。

3 検査件数の増加等、H I V検査体制を充実させるに当たっての現実的な問題点などがあれば、記載してください。

予算・人員の確保が困難である。また、男性同性愛者等、検査が必要な対象層の受検促進を図るための効果的な広報も課題である。

4 エイズ対策全般における課題や効果的な取組などがあれば、記載してください。

H I V検査体制の強化だけでなく、MSMを対象とした予防啓発を始め、効果的な予防啓発をどう進めていくかが課題である。なお、平成20年度からは、同性愛者イベントに合わせて、同性愛者を対象としたH I V検査会を定例実施している。

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会
H I V検査体制に関する調査票

自治体名 大阪市

1 最近（平成20年1月～平成22年6月）の検査件数の推移について所見を記載してください。

本市では3区保健福祉センターで平日昼間、また大阪府と合同で火・金・木曜夜間、土曜日昼間、日曜日昼間即日検査を実施しているが、傾向としては日曜日昼間即日検査を除き、平成21年7・8月頃から受検人数の減少が顕著になっており新型インフルエンザの影響があったのではないかと推測している。今年度になっても受検人数の回復傾向は見られないが、昨年度のような特別な事情も考えられず困惑しているところである。

2 上記1の所見を踏まえ、H I V検査の推進に当たって実施し、又は実施に向けて検討している取組（検査体制の充実のほか、普及啓発等のエイズ対策事業を含む。）があれば、記載してください。また、その取組の成果や課題等についても記載してください。

現在のところ、特に実施している取り組みはない。

3 検査件数の増加等、H I V検査体制を充実させるに当たっての現実的な問題点などがあれば、記載してください。

本市行財政事情は非常に厳しく、検査体制の充実を図ろうとしても予算・人員の確保が困難である。

4 エイズ対策全般における課題や効果的な取組などがあれば、記載してください。

【課題】

本市においては、若年層及び男性同性間性的接触者のHIV感染症及びエイズ患者の発生率が国平均より高い現状にある。また、最近では、40歳代～50歳代のHIV感染症及びエイズ患者の発生が増加傾向にある。これまで、個別施策層及び広く一般対象者を中心にエイズ対策を実施してきたが、今後に向けては、MSM、青少年層などの個別施策層に対してより一層対策を強化していく必要がある。また、治療の長期化に伴う感染者、患者が安心して暮らせるよう地域の受け入れ体制づくり、偏見などによる患者差別の問題など、本市が抱えている課題は我が国が抱える課題と同様である。したがって、国民全体への普及啓発については国が中心となり展開し、各自治体の特性に対する対策については、各々の自治体において焦点を絞り実施するという役割分担を行ない取り組む体制が必要である。

【今後の取り組みの強化について】

- ・当事者団体やNPOとの効果的な連携の在り方を追求し実施する。
- ・障害者施設や介護保険施設等への知識の普及啓発を実施する。
- ・教育現場における教職員による生徒の発達段階に応じたHIV/エイズ予防教育の実施を支援する。
- ・教職員へのHIV/エイズ予防教育を実施する（現任教育の中にHIV/エイズの啓発を盛り込む。）。
- ・医療機関の体制整備

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会
H I V検査体制に関する調査票

自治体名 _____ 堺市 _____

1 最近（平成20年1月～平成22年6月）の検査件数の推移について所見を記載してください。

平成20年度までは年々検査数は増加傾向にあったが、平成21年度は新型インフルエンザの影響もあり、検査数が減少となった。しかし、新型インフルエンザのみが原因とは言えず、検査の周知方法等にも問題があるのではないかと考えている。

2 上記1の所見を踏まえ、H I V検査の推進に当たって実施し、又は実施に向けて検討している取組（検査体制の充実のほか、普及啓発等のエイズ対策事業を含む。）があれば、記載してください。また、その取組の成果や課題等についても記載してください。

隔月で保健所が実施主体となって行っている即日検査を、委託化し毎月実施できる体制の構築に向け、NPO団体と調整している。また日程を検査希望者が検査を受け易い日にちに設定することで利用者の利便性を図るよう調整しているところである。

3 検査件数の増加等、H I V検査体制を充実させるに当たっての現実的な問題点などがあれば、記載してください。

市内8ヶ所の保健センターにおいて月2回（一部1回）実施している通常検査について、医師を含めた人員の確保が困難になってきている。また、市民の関心が薄く、通常の検査の検査数が少ないことから、周知方法や利便性について検討していく必要がある。今後、夜間検査の充実を図るため、検査体制の見直しを行う予定である。

4 エイズ対策全般における課題や効果的な取組などがあれば、記載してください。

保健センターにおける検査での陽性発見率が低い状況であり、検査機会の拡充も必要であるが、感染リスクの高い人達に焦点を当てた啓発・情報発信の取り組みが課題である。

第5回重点都道府県等エイズ対策担当課長連絡協議会
HIV検査体制に関する調査票

自治体名 神戸市

1 最近（平成20年1月～平成22年6月）の検査件数の推移について所見を記載してください。

平成20年の検査件数は、年間で4,806件、月平均400件になっている。なかでも6月9月12月の検査件数は多い。これは、6月・12月はHIV検査の啓発機会が多いことから、受検者が増えていると考えられる。
平成21年の検査件数は、年間3,556件であり、新型インフルエンザの発生後は、月平均268件と大幅に減少しており、新型インフルエンザによる行動自粛したことが影響していると考えられる。
平成22年6月までの検査件数は、1,364件、月平均227件とさらに減少している。

2 上記1の所見を踏まえ、HIV検査の推進に当たって実施し、又は実施に向けて検討している取組（検査体制の充実のほか、普及啓発等のエイズ対策事業を含む。）があれば、記載してください。また、その取組の成果や課題等についても記載してください。

現在のところ、検査体制の充実等の検討は行っていない。現行実施している検査の啓発を積極的に行っていくことが必要である。

3 検査件数の増加等、HIV検査体制を充実させるに当たっての現実的な問題点などがあれば、記載してください。

市民からは、即日検査の希望が多い。現在年間15回（月1～2回）指定の土曜日に即日検査を実施しているが、35名の予約制で、定員に達したため、申込みを断ることがある。即日検査の実施を増やすためには、予算の確保、委託事業者との調整などの課題がある。

4 エイズ対策全般における課題や効果的な取組などがあれば、記載してください。

- ・HIV検査陰性者が、今後リスクを回避できるような行動がとれるよう意識付けが必要
- ・エイズ患者が在宅での長期療養できるための支援体制、ネットワークが必要